

平成13年度 家庭教育充実事業

「小学生をもつ父親・母親の養育態度・意識の実態に関する調査」

報 告 書

(電子版)



利用の際は必ず下記サイトを確認下さい。
www.bunka.go.jp/jiyuriyo

福岡県立社会教育総合センター

(電子版報告書は、電子化にあたり修正等を加えてあるため、冊子の報告書とは若干の違いが生じております)

はじめに

近年、都市化・情報化等の社会構造の変化による地域の教育力の低下や核家族化・少子化等に伴う家庭の教育力の低下が指摘され、大きな社会的問題ともなっています。

また、人々の価値観の多様化は、「子育て」の多様化につながり、親の子育てに関する悩みや不安は、ますます増大してきています。

このような社会的背景から、21世紀を担う子どもたちを健やかにたくましく育てていくためには、新しい子育て支援グループのネットワーク化や子育てに関する相談事業の充実、父親の家庭教育参加啓発の取り組み等、家庭の教育力向上のための方策が一層重要となっています。

このため、当センターでは、家庭の教育機能を高めるため、子どもを持つ親等を対象にした「思春期の子どもを持つ親のための子育て講座」や「父親の家庭教育参加啓発事業」等、子育て活動支援事業の実施や、家庭教育に関する電話相談等の相談体制の整備充実を図るため、「家庭教育等電話相談カウンセリング基本研修・応用研修」の事業の他、家庭教育24時間電話『家庭教育相談「親・おや電話」』の設置など、家庭教育充実事業を展開してきました。

また、家庭教育充実事業では「調査研究部会」を設置し、父親・母親の養育態度・意識の実態に関して経年調査を行っています。

本調査は、親が生活の場面で子どもにどのように関わっているのか、その実態を明らかにするとともに、親の養育態度・意識の変化について前回の調査結果と比較検討し、今後の乳幼児期及び小・中学生期の一貫した家庭教育の指導の在り方を探るために行っているものです。

本年度は、県内8地区13の小学校の協力を得て、約6,000名の保護者を対象に、「小学生を持つ父親・母親の養育態度・意識の実態に関する調査」を行い、その分析結果を本報告書としてまとめました。

今後の小学生期における家庭教育(子育て)の在り方を探る基礎資料として、本報告書をご活用いただければ幸いです。

おわりに、本事業の推進にあたり、ご尽力いただきました、家庭教育充実事業の各委員、調査にご協力いただいた小学校をはじめ、ご支援いただいた関係機関の方々に心より感謝申し上げます。

平成14年3月

福岡県立社会教育総合センター

所長 安野義勝

目 次

I 平成13年度 家庭教育充実事業の概要

1 家庭教育充実事業開設要項 -----	1
2 家庭教育充実事業内容 -----	3
3 子育て連絡協議会・調査研究部会委員・子育て学習運営委員会委員 -----	4

II 小学生をもつ父親・母親の養育態度・意識の実態に関する調査

第1章 調査の概要

1 調査の目的 -----	5
2 調査の方法 -----	5
3 分析の基本視点 -----	7

第2章 親の養育態度

1 基本的生活習慣 -----	8
2 遊び -----	12
3 勉強 -----	14
4 金銭感覚 -----	15
5 社会性 -----	17
6 子どもの理解 -----	19

第3章 親の養育学習と自己評価

1 学び合い -----	20
2 しつけの自己評価 -----	21

第4章 養育意識

1 しつけの目標 -----	25
2 育ちの意識 -----	26

第5章 結論と今後の課題 -----	28
--------------------	----

III 参考資料

- 1 実施要項（調査協力校一覧）
- 2 配布アンケート（母親用）
- 3 データ集

I 平成13年度 家庭教育充実事業の概要

1 家庭教育充実事業開設要項

(1) 事業の趣旨

家庭の教育機能を高めるため、子どもを持つ親等を対象にした家庭教育に関する電話相談等の相談体制の整備充実を図るとともに、子育て活動を支援する事業などを実施し、生涯学習の基盤となる家庭教育の充実振興に努める。

(2) 実施主体

福岡県教育庁教育企画部生涯学習課
福岡県立社会教育総合センター

(3) 事業の内容

① 子育て支援連絡協議会・調査研究部会及び子育て学習運営委員会の設置

本事業全般の企画運営の充実を図るため、家庭教育に関する学識経験者（教育心理学、臨床心理学、社会学、医学等の専門分野）、保育・学校教育関係者、PTA・婦人団体・青少年団体代表者、マスコミ関係者、民間企業関係者、関係行政担当者等幅広い分野から委員を選出し、子育て支援連絡協議会・調査研究部会及び子育て学習運営委員会を設置する。

○ 子育て支援連絡協議会

(ア) 子育て支援連絡協議会は、事業の基本方針と実施要項を策定し、その運営について審議するとともに、事業の成果を評価する。

(イ) 子育て支援連絡協議会に委員長・副委員長を置く。

(ウ) 子育て支援連絡協議会は年間3回程度開催する。

○ 調査研究部会

(ア) 調査研究部会は「小学生をもつ父親・母親の養育態度・意識の実態に関するアンケート調査」を実施することにより、平成8年度に実施した同調査と比較検討し、今後の乳幼児・小中学生期の一貫した家庭教育の指導の在り方をさぐる。

(イ) 調査研究部会に部会長・副部会長を置く。

(ウ) 調査研究部会は年間3回程度開催する。

○ 子育て学習運営委員会

(ア) 子育て運営委員会は、関係機関・団体等と連携・協力を図り、子育て学習事業の促進を図る。

(イ) 子育て運営委員会は、子育て学習事業の基本方針の策定・企画・運営及び事業全体の評価を行う。

(ウ) 子育て運営委員会は、年間3回程度開催する。

② 相談事業

○ 電話及び面接による相談

(ア) 学識経験者等を相談員に委嘱し、家庭教育に関する親等からの相談（子育てに関する悩み等）に応じる。

(イ) 専用電話『家庭教育相談「親・おや電話」』（092-947-3515）を設置する。

(ウ) 相談者の依頼により、面接による相談にも応じる。

(エ) 相談日は、月曜日から土曜日まで、時間は9時から17時とする。

(ただし、第2月曜日・祝日及び年末年始を除く)

(オ) 月別に相談件数や相談内容を集計し、子育て支援連絡協議会に報告する。

○ 家庭教育に関する24時間電話相談

(ア) 学識経験者等を相談員に委嘱し、家庭教育に関する親等からの相談(子育てに関する悩み等)に応じる。

(イ) 相談日は、月曜日から土曜日まで、時間は17時から24時までとする。

(ただし、第2月曜日・祝日及び年末年始を除く)

(ウ) 0時から9時の間は留守番電話及びファクシミリで対応する。

③ 家庭教育支援者育成事業

○ 家庭教育に関する相談員等の養成

家庭教育に関わる相談員の資質向上を図るとともに、相談員の養成確保に努めるため、家庭教育に関する専門知識やカウンセリングに関する知識・技能等を修得するための研修会を実施する。

(ア) 研修会は、電話相談機関で電話相談業務の担当者(基本研修の場合のみ経験3年未満)、及びこれから電話相談業務に従事しようとする人を対象とする。

(イ) 研修会は「家庭教育等電話相談員カウンセリング基本研修」を年3回、「家庭教育等電話相談員カウンセリング応用研修」を年4回実施する。

④ 子育て活動支援事業

○ 父親の家庭教育参加啓発事業

親子の共同体験を通して親子のきずなを深めたり、親子の交流を通じて子育てに関する情報交換や仲間づくりを促進するための事業を県内6施設(県立社会教育総合センター、県立少年自然の家「玄海の家」、県立英彦山青年の家等)で実施する。

○ 子育てたのしかネット事業

各地域で子育てに関して中核となる子育てグループを選考・委託し、そのグループが他のグループ等との研修や交流事業を実施し、PTA・乳幼児学級・家庭教育学級等と連携協力を図りながら子育てネットワークの構築を図る。

○ 子育て学習事業(思春期の子どもを持つ親のための子育て講座の開設)

子育てやしつけなどの家庭教育のあり方を見つめ直すため、より多くの親に働きかけ、家庭教育について考える機会を提供することにより、家庭の教育力の再生を図る。

⑤ 調査・研究事業

○ 家庭教育に関する調査・研究

小学生をもつ父親・母親の養育態度・意識の実態に関するアンケート調査を行う。

○ 家庭教育に関する24時間電話相談調査研究事業

家庭教育に関する悩みや不安を抱く親に対して、電話等による24時間相談ができる体制の在り方について実践的な調査研究を行う。

2 家庭教育充実事業内容

事業名	事業内容	内容	対象
相談事業	※電話及び相談による相談 (9:00～17:00) ----- ※24時間電話相談(17:00～24:00)	「親・おや電話」を設置 (092-947-3515) ----- 転送電話により対応	乳幼児や小・中学生を持つ親等
家庭教育支援者育成事業	家庭教育に関する相談員等の育成 「家庭教育電話相談員 カウンセリング基本研修」 「家庭教育電話相談員 カウンセリング応用研修」	基本研修日程 ・5月9日(水) ・5月16日(水) ・5月22日(水) 応用研修日程 ・7月23日(月) ・9月28日(金) ・10月26日(金) ・12月7日(金)	各電話相談機関で電話相談業務に従事する電話相談員及び今後電話相談業務に従事しようとしている人
子育て活動支援事業	父親の家庭教育参加啓発事業 ----- ①ふれあいの家北筑後 … 8/18～19 ②少年自然の家「玄海の家」 … 8/25～26 ③英彦山青年の家 … 8/25～26, 2/9～10, 2/10～11 ④ふれあいの家京築 … 8/25～26 ⑤ふれあいの家北九州 … 11/10～11 ⑥社会教育総合センター … 12/8～9		小・中学生とその保護者
	子育てたのしかネット事業	中核グループが中心となって地域における子育てネットワークの構築を図る	地域の子育てグループ
	子育て学習事業	家庭教育について考える機会を提供し、家庭の教育力の再生を図る	思春期の子どもを持つ親
調査・研究事業	家庭教育に関する調査・研究	父親・母親の養育態度及び意識の実態調査	小学生を持つ父親・母親
	24時間電話相談に関する調査研究		24時間相談ができる体制のあり方

3 子育て連絡協議会・調査研究部会委員・子育て学習運営委員会委員

○子育て支援連絡協議会委員

	氏名	所属・職名	備考
1	横山 正幸	福岡教育大学 教授	会長
2	井上 豊久	福岡教育大学 教授	副会長
3	山下 奈緒美	RKB毎日放送アナウンス部 部長	
4	濱砂 圭子	株式会社フラウ 代表取締役社長	
5	村山 尚子	心理教育研究所 主宰	
6	笠置 千晶	県PTA連合会 母親委員長(福岡東中学校PTA)	
7	木村 和美	子育てネットワーク「ナチュラル」 代表	
8	平嶋 智晃	県教育庁北九州教育事務所 主任社会教育主事	
9	江崎 藏	県教育庁教育振興部義務教育課 主任指導主事	
10	重松 孝士	県教育庁教育企画部生涯学習課 課長	

○調査研究部会委員名簿

	氏名	所属・職名	備考
1	井上 豊久	福岡教育大学 教授	部長
2	吉川 昌子	中村学園大学短期大学部 講師	副部長
3	白水 明	篠栗町立北勢門小学校 教頭	
4	黒木 章次 北岡 隆博	県教育庁教育振興部義務教育課 指導主事 〃	
5	久原 寛	県教育庁教育企画部生涯学習課 主任社会教育主事	

○子育て学習運営委員会委員

	氏名	所属・職名	備考
1	林 幹男	筑紫女学園大学・教授	委員長
2	村山 尚子	心理教育研究所 主宰	副委員長
3	片岡 節子	県警察本部生活安全部少年課・少年補導職員	
4	長家 昭	県教育センター 主任研究主事	
5	渡辺 清二	県教育庁福岡教育事務所 社会教育主事	
6	中野 喬子	県立社会教育総合センター 相談員	
7	紫村眞喜子	県立社会教育総合センター 相談員	

Ⅱ 小学生をもつ父親・母親の養育態度・意識の実態に関する調査

◆第1章 調査の概要

1 調査の目的

子どもに対する保護者の養育態度・意識は、子どもの意欲や自主性・耐性などの健全な発達に大きく関係しているといわれている。

このような観点から、保護者が具体的な生活の場面で子どもにどのようにかかわっているのか、その実態を明らかにしていくことは、今後の家庭教育の在り方を探求していくうえで極めて重要な課題である。

そのため、昭和55年度、平成3年度、平成8年度に小学生をもつ保護者を対象に「父親・母親の養育態度・意識の実態調査」を実施した。この中で、前々回（平成3年度）より過保護の傾向が認められており、数字的に見ると父親の関係の希薄化、母親の囲い込み養育の傾向がますます強くなってきている。

本年度は、前回と同趣旨で、小学生をもつ父親・母親の養育態度・意識の実態についての調査を実施し、5年間の保護者の養育態度・意識の変化を比較検討し、今後の乳幼児・小中学生期の一貫した家庭教育の指導の在り方を探る。

2 調査の方法

(1) 調査の対象

本調査は、福岡県下8地区の13小学校の1年生から6年生までの保護者を対象に実施した。回収できたものから記入者が父親・母親以外のものを除いた父親2,772名、母親3,145名、合計5,917名を有効回答とした。回収率は81.3%であった。

有効回答者の内訳を子どもの学年別に分類すると表1となり、それを男女別に見ると表2となる。さらに、親の年代別に分類すると表3のとおりである。

(2) 調査の方法

本調査は質問総数43項目からなる調査票「小学生のしつけ（養育態度・意識）についてのアンケート」によって、無記名で行った。調査票は男性の保護者用と女性の保護者用を作成し、質問の構成と内容は同一のものとした。

調査票は①親の養育態度、②養育学習と自己評価、③養育意識の3領域で構成している。

親の養育態度の領域では、基本的な生活習慣のしつけや遊び、勉強、金銭感覚、社会性、子どもの理解等について質問している。

養育学習と自己評価の領域では、親としての子育てに関する学習やしつけに対する自己評価について質問している。

養育意識の領域では、親が子育てやしつけに関して考えている目標や子どもをほめたりしつけで心を配っていることなどの意識について質問している。質問項目の構成は表4に示している。

アンケートの質問と回答の結果は、個別に本文中に、また、全文と集計のまとめを本報告書の末尾に掲載している。

(3) 調査の実施方法と時期

調査の実施にあたっては、調査に協力いただいた小学校に調査票を直接持参し、学級担任をとおして各家庭に配布し記入をお願いした。

調査を実施した時期は平成13年9～10月である。調査に協力いただいた小学校の名称は本報告書の末尾に掲載している。

表1 学年別サンプル数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
父	476	419	481	456	453	487	2,772
母	523	479	556	515	525	547	3,145
計	999	898	1,037	971	978	1,034	5,917

表2 男女別（学年別）サンプル数

		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
父	男	265	253	268	248	237	269	1,540
	女	211	166	213	208	216	218	1,232
	小計	476	419	481	456	453	487	2,772
母	男	261	248	275	247	231	255	1,517
	女	262	231	281	268	294	292	1,628
	小計	523	479	556	515	525	547	3,145
	計	999	898	1,037	971	978	1,034	5,917

表3 親の年代別サンプル数

	25未満	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60以上	計
父	2	41	275	735	1,032	498	165	18	6	2,772
母	3	84	641	1,240	887	246	41	0	3	3,145
計	5	125	916	1,975	1,919	744	206	18	9	5,917

表4 質問項目の構成

〔1〕親の養育態度	〔2〕養育学習と自己評価	〔3〕養育意識
(1) 基本的生活習慣	(1) 学び合い	(1) しつけの目標
1. 起床の世話 2. 朝食の習慣 3. 持ち物の注意 4. 着替えの用意 5. 日常の挨拶 20. 宿題・手伝い忘れ 22. 寝る時刻 23. 履き物の始末	25. 学校主催会合への出席 37. しつけについての学習 39. 地域行事活動への参加	26. 他との比較 27. 男女の区別 42. 親が描く子ども像
(2) 遊び	(2) しつけの自己評価	(2) 育ちの意識
8. 遊び方 9. テレビの内容 10. テレビの時間 12. 遊び相手 13. 子どもと過ごす時間	32. しつけの自信 33. 自信のなさの理由 34. 子どもの身の回りの世話 35. しつけの甘さ 36. 子育てのストレス 38. 良いモデル 40. 子育ての楽しさの実感	28. 子どもをほめる 41. しつけの重点
(3) 勉強		
14. 勉強に対する意見 15. 勉強を見てやる 16. 塾へやる		
(4) 金銭感覚		
11. 物の買い与え 17. お金の与え方 18. お金の使い方		
(5) 社会性		
6. 他人への挨拶 19. 手伝い 21. 共同で家事 24. 言葉づかい 29. ニュース解説 31. ルール・マナーの注意		
(6) 子どもの理解		
7. 友達 30. 子どもの言い分を聞く		

3 分析の基本的視点

調査結果の分析は、調査票の構成に沿って行った。質問毎の特徴や傾向を把握するために、結果の集計は父親・母親別、学年別に行った。分析・考察については父親・母親別、学年別に加え、過去3回の調査結果と比較したり因子分析を取り入れながら行っている。

なお、グラフの数値については、過去のデータも含め小数点以下を四捨五入しているため、1%程度のズレが生じている。また、兄弟姉妹の有無別、位置別、親の年代別にみた傾向については本報告書ではふれていない。

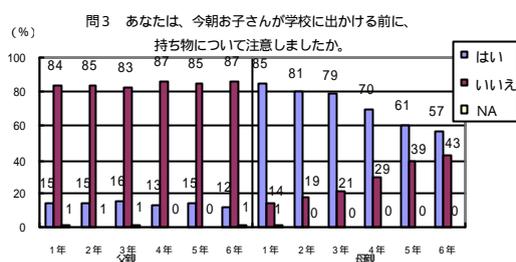
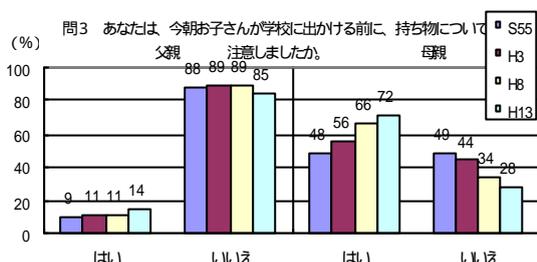
(文責 久原 寛)

(3) 持ち物の注意

「あなたは、今朝お子さんが学校に出かける前に、持ち物について注意しましたか。」という問いに対し、「はい」と答えた父親が14%、母親が72%であり、20年前の調査から父親、母親とも増加している。とくに母親の増加傾向が著しく、20年間で20ポイント以上も増えている。また、父親に比較して母親の方が注意する割合が多いのは、20年間同様である。

母親の学年別差異を見ると、発達段階と関連してその数値は減少している。しかし最低の6年生でも57%もあり、比較的高い数値を示している。前回の調査では6年生が51%であり、わずか5年間で6ポイントも増加している。

このように今後も母親が注意する割合は、増え続けることが予想され、過保護とも思われる親がこれからも増加すると考えられる。

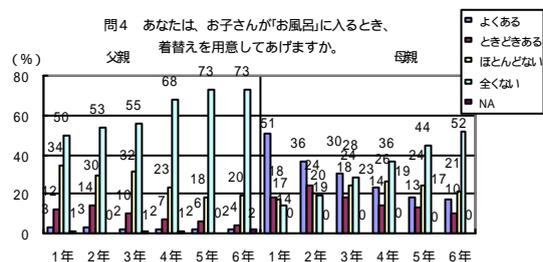
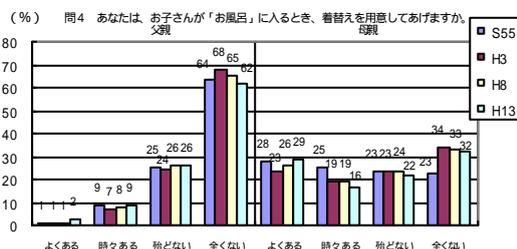


(4) 着替えの用意

「お風呂にはいるときの着替えの用意」については、「よくある」「時々ある」をあわせて母親が45%、父親10%であり、これまでの調査とほとんど同様の結果であり、父親が着替えの用意をする割合はごくわずかである。

母親の学年別差異では、1年生では、「よくある」「時々ある」と答えた母親が69%もいる。学年が上がるにつれ、その割合は減少しているものの、6年生でも、27%もの母親が「よくある」「時々ある」と回答している。しかも、5年前と比較するとその数は増加している。

親が着替えを用意するかどうかは、親が子どもにまかせられると思っているかどうかで左右される。学年別差異をみると、およそ4年生になると、母親は子どもにまかせられると見ていると考えられる。



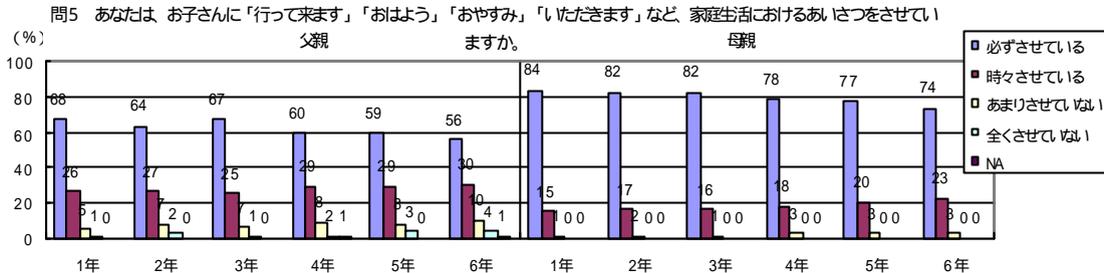
(5) 日常のあいさつ

あいさつについては、各学校においても「あいさつ運動」等積極的に取り組まれているため、家庭においてもあいさつの大切さについての意識は高いようである。

「お子さんに家庭生活におけるあいさつをさせていますか。」の問いについては、「必ずさせている」「時々させている」と回答した母親が98%、父親が90%であり、母親、父親とも非常に高い数値を示している。

学年別差異では、「必ずさせる」と回答した数が最も高かったのは、母親、父親とも1年生であり、学年が上がるにつれて減少傾向である。しかし、2年生では母親、父親とも減少し、3年生で再び増加するという不思議な現象もある。

学年が上がるにつれてあいさつをさせていない割合が増加していることより、子どもの成長とともに、徐々に意識が減少してくるのであろう。

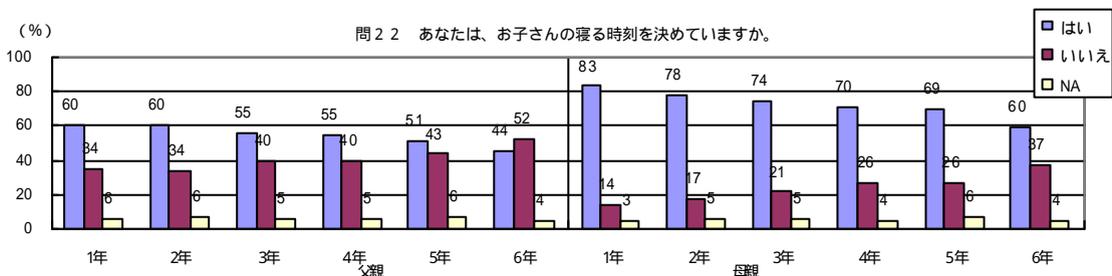


(6) 就寝時刻の決定

子どもの就寝時刻を決定することは、正しい生活習慣や態度、健康的な生活を身につけさせるためには非常に重要なことである。

「あなたは、お子さんの寝る時刻を決めていますか。」の問いについては、「はい」と回答した母親が72%、父親が54%であり、母親に比べて父親の意識がかなり低いようである。

学年別差異では、母親、父親とも、学年が上がるにつれて、「はい」と回答した数は減少している。とくに6年生では5年生と比較して、母親で約9ポイント、父親で約7ポイントも減少している。これは6年生ともなると就寝時間等は自己管理とし、子どもにまかせているのか、あるいは子どもの成長とともに、就寝時刻を決定する大切さの意識が母親、父親とも減少していき、放任の傾向があるとも考えられる。

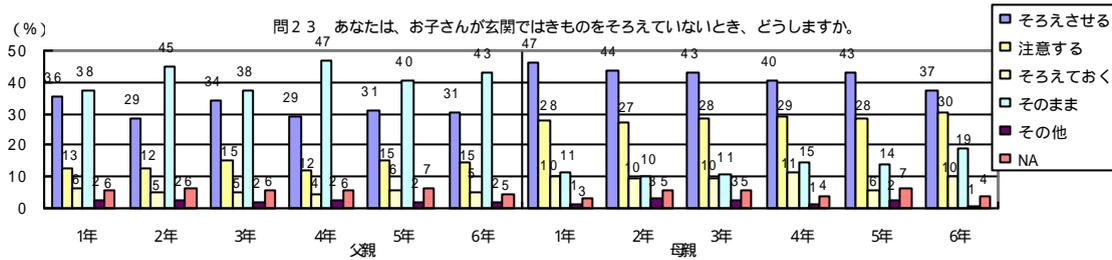


(7) 履き物の始末

「履き物をそろえる注意」については、父親の場合、「子どもにさせる」32%、「そのままにしておく」42%であり、子どもに注意することはあっても、親自身がそろえてやることは非常に少ない。また、母親の場合、「子どもにさせる」42%、「自分でそろえたあと注意する」29%であり、乱れた履き物を「自分でそろえる」「そのままにしておく」のは、13%と非常に少ない。

つまり、父親は口頭で注意はするものの、自ら行動で示すことは少なく、履き物の始末に関する意識は低く、母親の意識とはかなり異なっているようである。

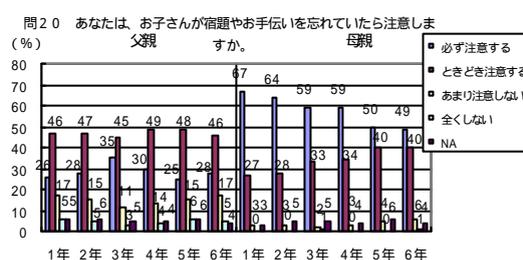
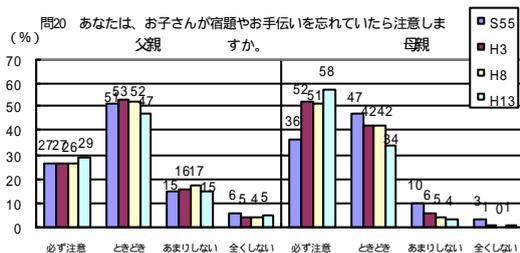
学年別差異では、母親の場合、学年が上がるにつれて、乱れた履き物を子どもにそろえさせる割合は少なくなっており、母親自らがそろえた後に子どもに注意することがやや増え、そのままにしておく割合が最も増加している。



(8) 宿題・手伝い忘れ

「宿題や手伝い忘れの注意」については、「必ず注意する」「時々注意する」父親は75%、母親は91%であり、両親とも他の問いと比較して、子どもとの関わりの割合が高く、各家庭でも注意することがあたりまえという傾向になっている。とくに母親は、20年前と比較すると「必ず注意する」割合が急増しており、子どもの学習や手伝いへの関心は年々大きくなっている。

学年別差異からみても、どの学年においても子どもの学習や手伝いへの関心はこれまでの調査よりも高くなっている。とくに学習面に関して高いのではないかと予想される。しかし、母親の場合、高学年になるにつれて「必ず注意する」ことが減っており、とくに4年生と5、6年生では約10ポイントも差がある。これは子どもが高学年になるにつれて、家庭学習が定着するという理由だけでなく、母親だけでは制御できなくなってきたとも考えられる。つまり父親との協力が必要であろう。



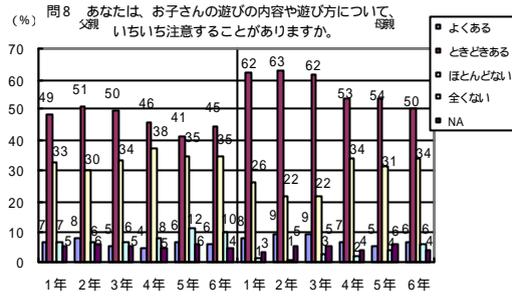
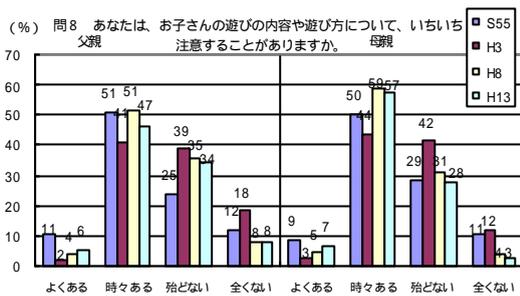
2 遊び

子どもにとって遊びとは、生活の一部であり、学習の場でもある。ところが、今日、子どもたちの遊びは、その内容、場所、仲間等あらゆる点から姿を変えてきている。したがって、これらの点に関する設問から現在の子どもの遊びに対して考えることにする。

(1) 遊び方

「あなたは、お子さんの遊びの内容や遊び方について注意したことがありますか。」の問いに対して、「よくある」「時々ある」は、父親が53%、母親が65%であり、両親ともに半数以上がなんらかの注意を行っている。これは前回の調査と比較するとさほど変化していない。しかし、20年間のスパンでその変化を見ると、子どもの遊びを注意する親が一度減少して、また、増加してきている。近ごろの子どもは、外で遊ぶことが非常に少ないので、例えば「外で遊びなさい。」といったケースの注意が増えてきているのではないかと推測される。

学年別差異では、母親、父親とも学年が上がるにつれ、注意することは減っており、低学年でしっかり注意し、高学年になると、遊ぶ内容等まではあまり干渉しなくなり、いちいち注意しなくなると思われる。

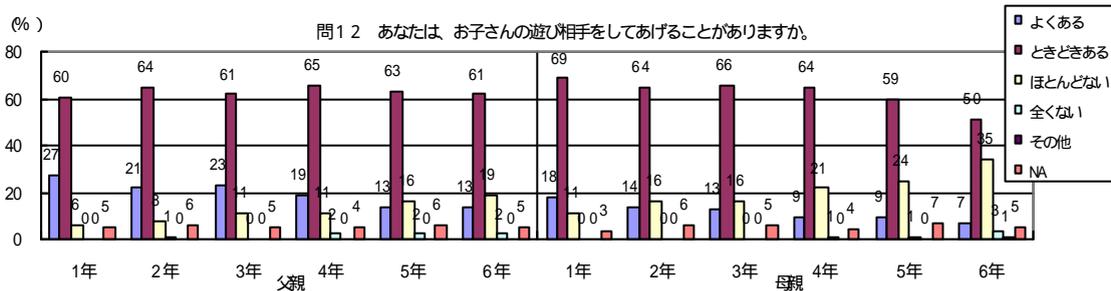


(2) 遊び相手

「子どもの遊び相手をしてやる。」の問いに対して、「よくある」「時々ある」は、父親が82%（初回84%、前回84%）、母親が73%（初回71%、前回74%）であり、多くの親が子どもたちと遊んでやっていることがわかる。さらに、これまでの調査と比較しても顕著な変化も見られない。

ただし、子どもとの関わりの中で、この遊び相手の設問だけは母親よりも父親の方が多いのが特徴である。

学年別差異では、学年が上がるにつれて、「ほとんどない」「全くない」が増えており、とくに5年生、6年生で大きく増加している。これは、遊び方についての注意の調査結果と関連しており、高学年ともなれば、遊ぶ内容、遊ぶ相手等まであまり親が干渉しなくなり、子どもたち独自で遊んでいると考えられる。

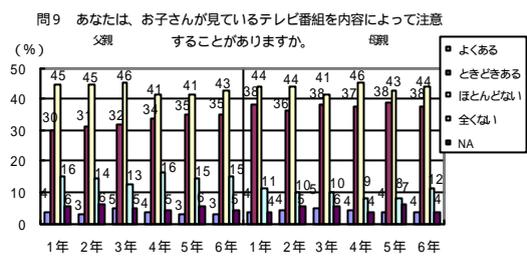
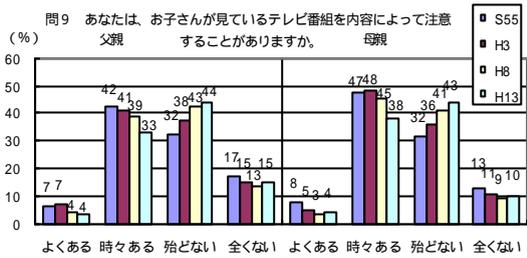


(3) テレビの内容・時間

「テレビ番組の内容に対する注意」では、「よくある」「時々ある」が、父親で36%、母親で42%であり、年々減少し続け、20年前の調査と比較すると、父親、母親とも13ポイントもの差が生じている。これは、現在ではBS放送やケーブルテレビ等テレビ局が増加し、テレビ番組数も増え、内容も多彩になっていることやレンタルビデオ等の貸出し等もあるため、番組の内容を選別する意識が親自身なくなってきたのではないかと推測される。

学年別差異では、母親、父親とも4つの回答の割合が各学年とも同様の傾向を示しており、変化がほとんどない。つまり、子どもにテレビ番組の内容によって注意している親は、子どもの学年が変わっても、その学年にふさわしい内容を確認しているのではないかと考えられる。

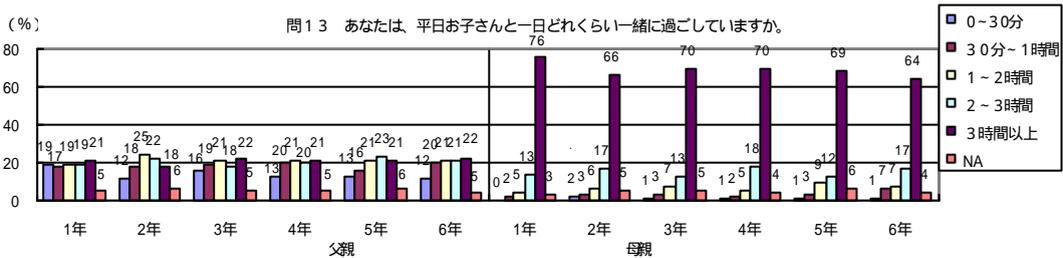
また「テレビを見る時間のきまりをつくっていますか。」の問いに対して、「はい」と回答した数は、父親で24%、母親で36%であり、テレビ視聴のきまりをつくっている家庭は少ない。しかも高学年ほどそのその数が減少している。



(4) 子どもと過ごす時間

「平日お子さんと1日どれくらい一緒に過ごしていますか。」の問いに対して、父親は、30分以下が14%、30分～1時間が18%、1～2時間が21%、2～3時間が20%、3時間以上が21%であり、それぞれの回答が同様な数値を示している。母親については3時間以上が69%であり、子どもと一緒に過ごす時間が長いほど回答が多くなっている。つまり、母親は日頃から子どもと一緒に過ごす時間が長く、家庭でのしつけ(養育態度等)の中心は、どうしても母親になりがちになることがいえる。父親は仕事等の関係で、子どもと一緒に過ごす時間が各家庭によってまちまちになるのであろう。

学年別差異では、1年生以外はどの学年も同様の傾向を示しており、小学校段階では、学年の違いと、親子と一緒に過ごす時間とはあまり関係ないことがいえる。



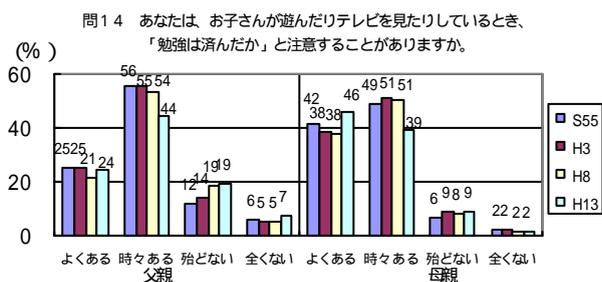
(文責 黒木章次)

3 勉強

義務教育を中心として組織的・体系的に行われる教育は、人間として自ら生き抜くための基礎能力を養うことにある。ここでは、勉強に対する親の養育態度の変化を「勉強に対する注意」「勉強を見てやる」「塾へやる」という設問から考える。

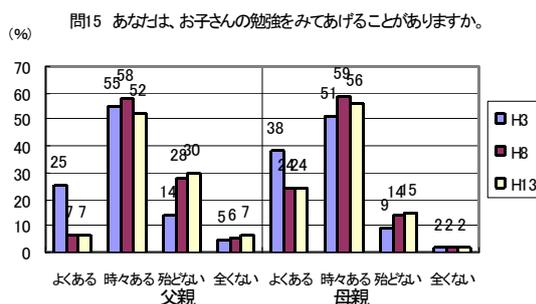
(1) 勉強に対する注意

「勉強に対する注意」については、「よくある」「時々ある」を合わせると、父親は68%、母親は85%である。初回(父親81%、母親91%)前々回(父親80%、母親89%)前回(父親75%、母親89%)の調査と比べると、両親とも少なくなってきた。また、父親と母親の差異は初回(10ポイント)前々回(9ポイント)前回(10ポイント)今回(17ポイント)となってきた。両親の勉強に対する注意は減少の傾向にあり、子供の勉強については、ますます母親任せになる傾向にある。



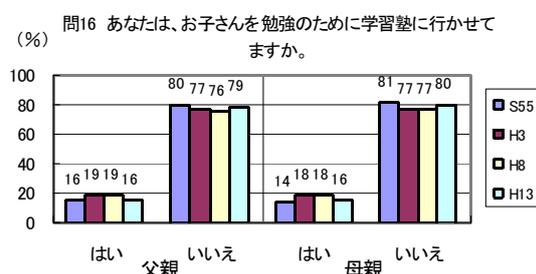
(2) 勉強を見てやる

「勉強を見てやる」については、「よくある」「時々ある」を合わせると、父親は59%、母親は80%であり、母親の方がかなり多いことがわかる。前々回（父親80%、母親89%）、前回（父親65%、母親83%）の調査と比べると、両親とも少なくなっている。このことから、両親ともに子供の勉強を見ること減少する傾向にあり、加えてさらに母親任せになる傾向にある。



(3) 塾へやる

「学習塾へやる」については、「はい」と答えた父親・母親ともに16%である。初回（父親16%、母親14%）、前々回（父親19%、母親18%）、前回（父親19%、母親18%）の調査と比べても大きな変化は見られず、学年が上がるにつれて、塾通いが増える傾向も変化は見られない。平成14年度からの学校完全週5日制の実施に伴って塾通いの実態が変化する可能性もある。

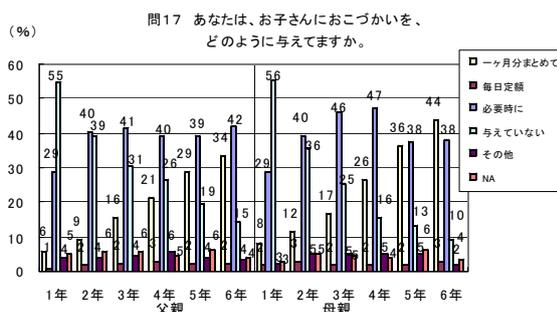
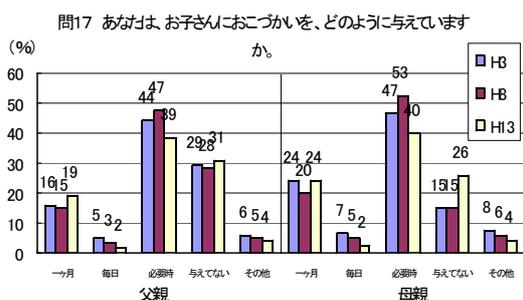


4 金銭感覚

金銭感覚を養うことは、将来、子どもが社会人として生きていくための重要な指導事項である。子供にとって魅力的な商品が豊富にある現在、小遣いをどのように与え、どのように使わせるかは、家庭教育における大切な問題である。ここでは、「金銭感覚」について、「お金の与え方」「お金の使い方」「物の買い与え」という設問から考える。

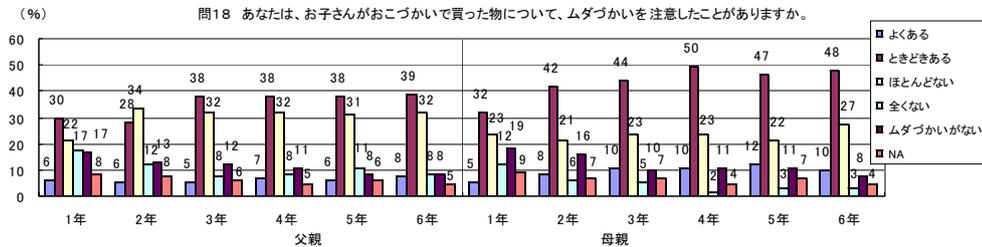
(1) お金の与え方

「小遣いの与え方」については、「必要時に」と答えた割合が一番高く、父親は39%、母親は40%である。前々回（父親44%、母親47%）前回（父親47%、母親53%）の調査でも「必要時に」と答えた割合が一番高かったが、今回は減少している。「小遣いを与えていない」が父親31%、母親26%となっており、前回（父親28%、母親15%）の調査と比べると増加している。学年が上がるにつれて、「一カ月まとめて」の割合は高くなっているが、「小遣いを与えていない」両親が増えていることから、必要時に買い与えて、計画的にお金を使う指導が低下していることがうかがえる。



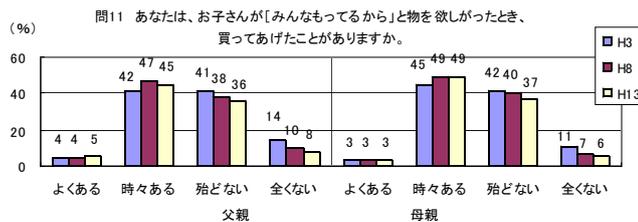
(2) お金の使い方

「ムダづかいの注意」については、「よくある」「時々ある」を合わせると、父親は41%（前々回47%、前回48%）、母親は53%（前々回57%、前回58%）である。お金を使う指導は両親とも減少する傾向にあり、母親に比べ父親の関わりがさらに低くなることが予想される。



(3) 他人にあわせての物の買い与え

『みんなが持っているから』と物をほしがったとき、買ってやったことがありますか』の問いでは、「よくある」「時々ある」を合わせると、父親は50%（前々回46%、前回51%）、母親は52%（前々回48%、前回52%）である。これまでの調査と比べてほとんど変化は見られない。「物の買い与え」については、父親が母親と同等に主体性なく他人にあわせて物を買っていることがわかる。

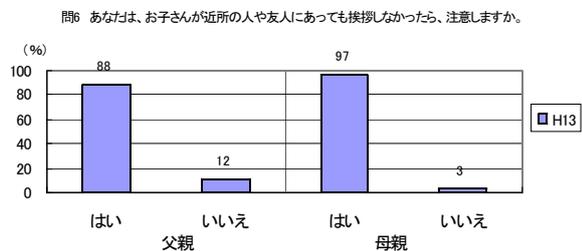


5 社会性

対人関係能力の不足による子どもの不登校の増加や社会規範意識の低下による学級崩壊の増加が、今日の課題となっている。従って、子供に自分を主張するだけでなく、他人の立場に立って考えたり、社会規範を守っていく態度を育てることは大切である。ここでは、「他人への挨拶」「言葉づかい」「手伝い」「共同で家事」「ニュース解説」「ルール・マナーの注意」という設問から考える。

(1) 他人への挨拶

「挨拶しなかったら注意しますか」という問いでは、「はい」は父親が88%で、母親が97%となっている。前回までは、回答の仕方が違うが、「必ず注意する」「時々注意する」を合わせると、初回（父親84%、母親92%）、前々回（父親80%、母親94%）、前回（父親84%、母親96%）となっており、やや増加している。母親の方が熱心であるが、両親ともに挨拶についての注意をよくしていることがわかる。

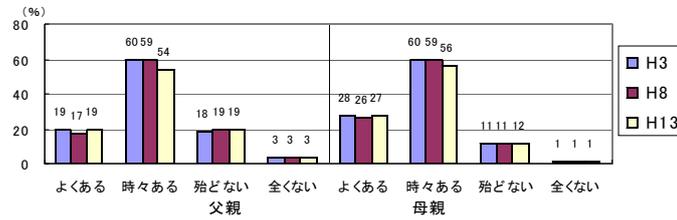


(2) 言葉づかい

「言葉づかいについての注意」では、「よくある」「時々ある」を合わせると、父

親は 73 %（前々回 79 %、前回 76 %）、母親は 83 %（前々回 88 %、前回 85 %）であり、両親とも言葉づかいを注意する割合が高いが、少しずつではあるが減少の傾向にある。

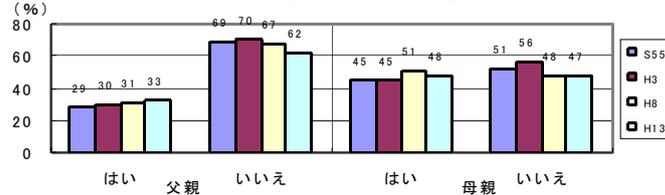
問24 あなたは、お子さんの言葉づかいについて注意することがありますか。



(3) 手伝い

「何か決まった手伝いをさせていますか」の問いでは、「はい」と答えた父親は 33 %（初回 29 %、前々回 30 %、前回 31 %）、母親は 48 %（初回 45 %、前々回 45 %、前回 51 %）となっており、母親の方が手伝いをさせる割合が高い。調査結果から半数の子どもが「決まった手伝い」をしていないことになる。家族の一員としての自覚をもたせるために「決まった手伝い」を与えて役割を果たさせたい。

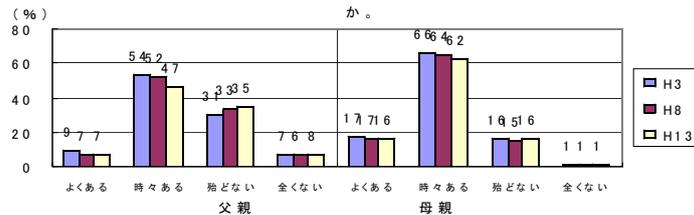
問19 あなたは、現在お子さんに何か決まったお手伝いをさせていますか。



(4) 共同で家事

「お子さんと一緒に家の仕事をする事」については、「よくある」「時々ある」を合わせると、父親は 54 %（前々回 63 %、前回 59 %）、母親は 78 %（前々回 83 %、前回 81 %）となっており、母親に比べて、一緒に家事をしない父親が多い。また、前々回、前回と比べると両親とも一緒に家事をする割合が低くなっており、減少の傾向にある。

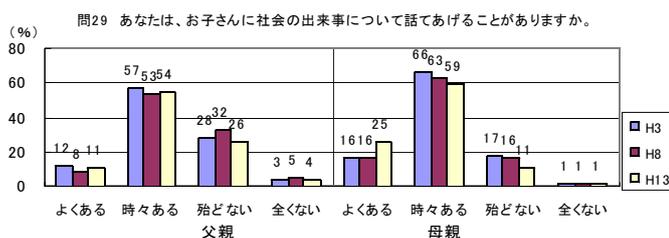
問21 あなたは、お子さんと一緒に家の仕事をすることがありますか。



(5) ニュース解説

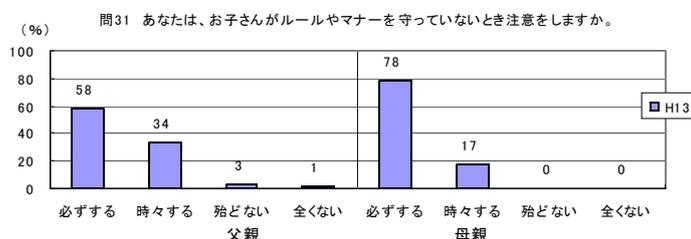
「お子さんに社会の出来事について話をしてやること」については、「よくある」「時々ある」を合わせると、父親は 65 %（前々回 69 %、前回 61 %）、母親は 84 %（前々回 82 %、前回 79 %）となっており、両親とも半数以上が社会の出来事について話をしてやっているとわかる。また、父親より母親が積極的に社会の出来事に

ついて話をしていることがわかる。



(6) ルール・マナーの注意

「ルール・マナーを守っていないときの注意」については、「必ずする」「時々する」を合わせると、父親は92%、母親は95%で、両親ともに注意をしていることがわかる。しかし、ルール・マナーを守ることは社会生活をおくっていく上で重要なことであり、小学校段階では必ずしたいものである。「必ずする」と答えた父親は58%で、母親は78%であり、父親の徹底した注意が望まれる。

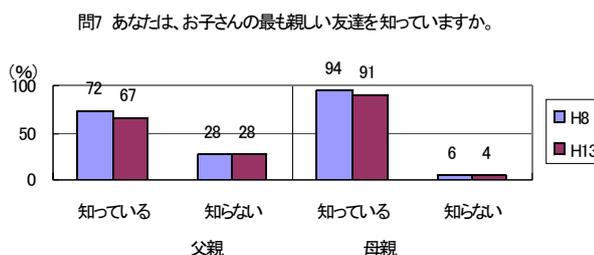


6 子どもの理解

子どもへの適切な指導には、子どもの実態を理解しておくことが重要である。ここでは、「友達」「言い分を聞く」という設問から考える。

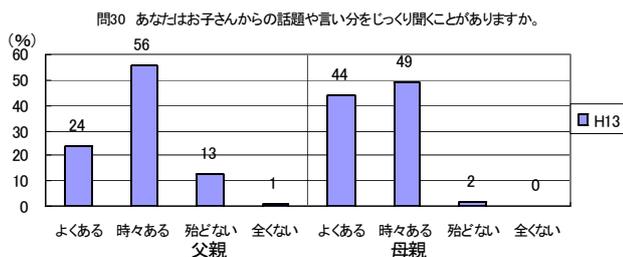
(1) 友達

「お子さんのもっとも親しい友達」については、「知っている」と答えた父親は、67%（前回72%）、母親91%（前回94%）となっている。母親の方が子どもの友達をよく知っており、子どもの友人に対する関心が高いことがうかがえる。前回に比べやや「知っている」割合が減少している。



(2) 言い分を聞く

「話題や言い分をじっくり聞く」については、「よくある」「時々ある」を合わせると、父親は80%、母親は93%となっており、母親の方が多く、両親ともによく話を聞いていることがわかる。



(文責 白水 明)

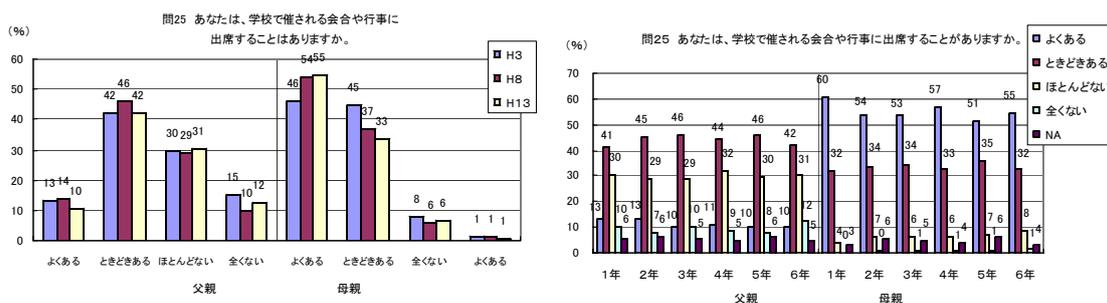
◆第3章 親の養育学習と自己評価

1 学び合い

めまぐるしい社会情勢や価値観が多様化する中であって、子どもの健やかな成長を願いつつも、その養育のあり方に戸惑うことは多い。学校や地域との連携のもとに、教師と親同士が互いの意見を出し合い、学びあうことや、さまざまな学習の場を活用することは、子どもの成長をよりよく把握し、それに即した養育の視点を得る機会となる。

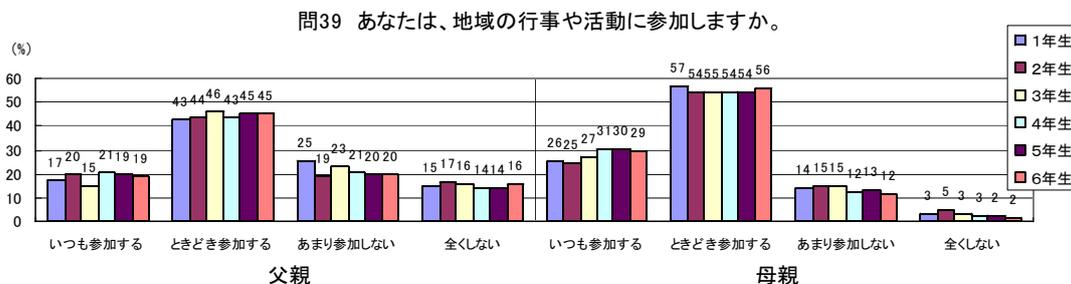
(1) 学校主催会合への出席

学校が主催する会合や行事へ出席することが「よくある」「ときどきある」という回答を合わせてみると、88%という高い割合の母親に比べ、父親は52%で半数程度にとどまっている。また父親は前回の平成8年の調査の60%よりも、さらに減少していることになる。一方母親の「よくある」を過去の調査結果と比較してみると、前々回の平成3年46%、前回の平成8年54%、そして今回55%で、ここ数年は10年前よりも10%近くも高くなっていることがわかる。この「よくある」を学年別にみると、1年生の母親の割合が60%と、他学年の51~57%より高い傾向にあり、新入学児をもつ親の期待と不安がうかがえる。



(2) 地域行事や活動への参加

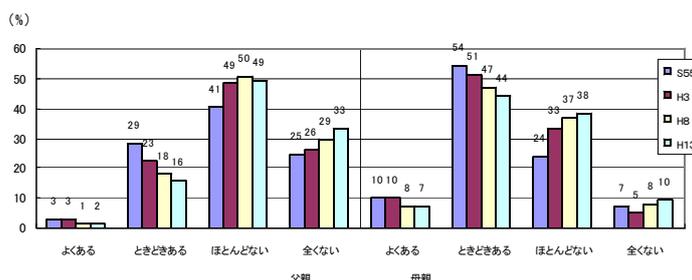
地域行事や活動に「いつも」ないし「ときどき」参加する父親は今回62%、母親は83%である。母親は前回の84%に近いが、父親は前回の67%より5ポイント減少している。学年別にみると、「いつも参加する」母親の割合が低学年より高学年の方が2~5ポイント程高い傾向にある。この理由としては子どもの年齢が上がるとともに、PTA役員等になる機会や地域との交流の機会が増えてくること、またきょうだい児も手のかかる乳幼児期を過ぎていることが多いので、母親の時間的余裕が幾分増えてくること等が考えられよう。



(3) しつけについての学習

「しつけに関する学習のために本を読んだり、テレビ番組をみたり、講演会にいったりする」ことが「よくある」「ときどきある」のは、父親が18%、母親が51%で、父親のしつけに関する学習意欲の低さが顕著である。これは前回の結果（父親19%・母親55%）にも言えることである。また初回（昭和55年父親32%・母親64%）や前々回（平成3年父親26%・母親61%）に比べると、父母ともに減少していることがわかる。このことは、年々よりよいしつけのあり方をいろいろな視点から学ぶという姿勢が低下し、親の個人的な見識や判断に頼った子育てに傾いていることを意味しているのではないかと懸念される。

問37 あなたは、お子さんのしつけについての本を読んだり、テレビ番組を見たり、講演会に行ったりすることがありますか。



2 しつけの自己評価

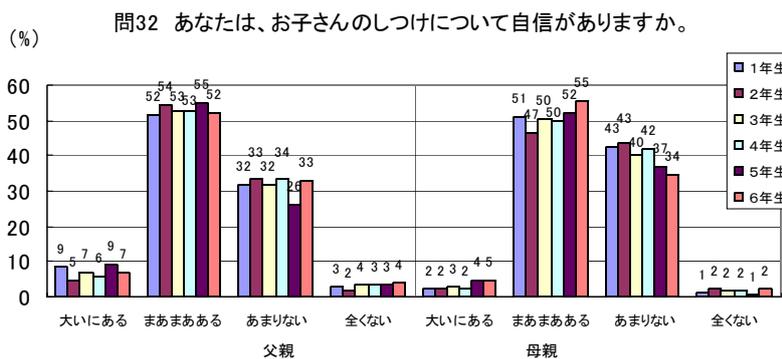
親が子どものしつけの第1の担い手として責任と自信をもち、さらに子育ての楽しさを実感できるならば、安定感のある子育てが期待されよう。ここでは「しつけの自信とその理由」「子どもの身の回りの世話」「しつけの甘さ」「良いモデル」「子育ての楽しさの実感」から、親の自己評価を考えてみる。

(1) しつけの自信とその理由

しつけについて自信が「大いにある」「まあまあある」と答えた父親は60%、母親は54%とやや低い。逆に「あまりない」「全くない」と答えた父親は合わせて35%、母親は42%と母親の方が高い割合である。前回の調査（父親52%・母親44%）と比較すると、父母とも8~10ポイント増加している。今回の結果を学年ごとにみると、6年生をもつ母親で自信があるという回答が60%あり、他の学年より6~11ポイント高かった。逆に自信がない母親の割合は1年44%、2年45%、5年38%、6年36%と高学年より、低学年の方が高い。

しつけに自信がもてない理由として、父親は「仕事が忙しく、しつけにじっくり関わる余裕がない」のが41%、「気分や感情に左右され、しつけの態度にムラがある」が26%となっている。一方母親は「気分や感情…」という回答の割合が45%、次に「価値観の多様化により、しつけの基準がわかりにくい」21%となっている。

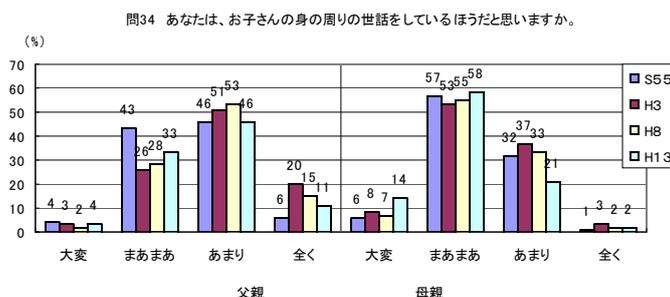
「子どもの言い分を聞く」との相関をみると、子どもの話をよくきいている親は、しつけにたいしても自信をもっている。とくに母親ではその傾向が顕著である。子どもとの対話を大切にすることで、親子の信頼関係も深められる。「しつけがうまくいかない」と感じるとき、この信頼関係もあやふやになっているのではないだろうか。



(2) 子どもの身の周りの世話

子どもの身の周りの世話を「大変よくしている」「まあまあしている」と思うと答えた父親が合わせて37%に対して、母親は72%と2倍近い。これについて過去の調査では、父親は初回47%、前々回29%、前回30%、母親は初回から順に63%、61%、62%となっており、母親はこの20年間であまり変わらないが、父親は今回は若干ポイントがあがっているものの、この10年は20年前に比べると、10~17ポイントの減少となっている。また男女別にみると、男子の母親は76%で、女子の母親の70%より高くなっている。さらに学年別にみると、母親では低学年程その割合が高く、1年生と6年生の母親では17ポイントの開きがある。

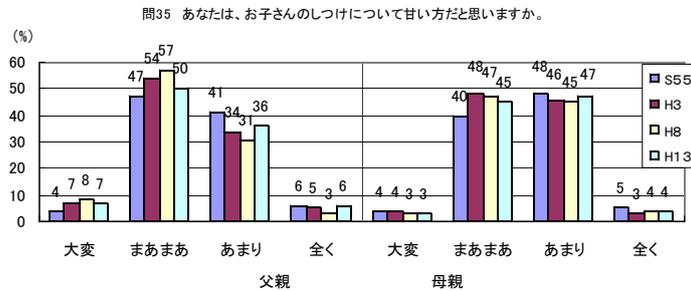
「しつけの甘さ」との相関をみると、しつけに「大変甘い」母親は、子どもの身の回りの世話を「大変よく」している。手をかけ過ぎることで、自立への道を遠くしてしまうこともある。身の周りのことが自分でできるように、気持ちをかけながらも見守るという親の姿勢が、子どもの育ちに応じて求められるところである。



(3) しつけの甘さ

子どもへのしつけが「大変甘い」「まあまあ甘い」と思うのは父親57%、母親48%で父親が高い割合である。逆に「あまり甘くない」「全く甘くない」と思う父親は42%、母親は51%である。初回調査にはしつけに甘い父親が51%であったが、前々回61%、前回62%と今回のように、しつけに甘い父親が過半数を上回るという傾向が定着していると言えるだろう。男女別にみると「まあまあ甘い」男子の母親は48%で、女子の母親の43%より高い。男子の母親は身の回りの世話でもつい手をかけてやることが多い。そのあたりがしつけの甘さとも関連していると思われる。

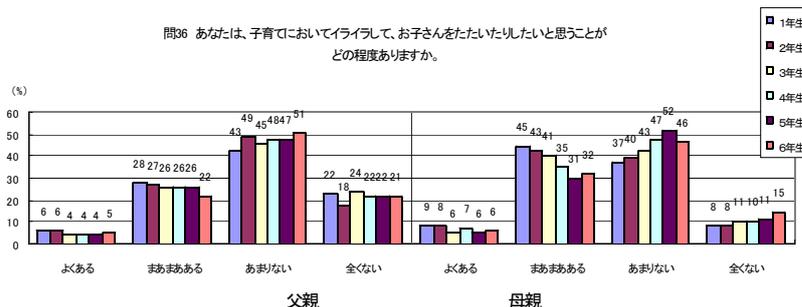
「しつけの自信」の問いとの相関をみると、父母ともにしつけに自信のない親の過半数がしつけに甘いと回答しており、逆におおいに自信のある親は過半数以上が甘くないと答えている。しつけに自信がないことで、子どもに毅然とした態度をとることも難しくなるのであろう。



(4) 子育てのストレス

「子育てにおいてイライラしたりして、お子さんをたたいたりしたいと思う」ことが「よくある」「まあまあある」母親は 45 %で、父親の 31 %よりかなり高い割合である。学年別にみると父母ともに低学年程その割合が高く、父親では1年生と6年生との間に7ポイントの開きがある。また母親の方はその差がさらに大きく 16 ポイントとなっている。子どもが小さい間は、親の立場を理解することが困難であり、また実際に時間を要する手助けを必要としている。それだけに親にかかる負担は大きく、特に直接的な関わりが多い母親のストレスはその分高まりやすいであろう。しかし、その否定的な感情をそのまま子どもにぶつけるのではなく、子どもの育ちについて多様な視点を取り入れながら自分を省みることができれば、ストレスが軽減され、虐待の抑制にもつながると思われる。

「しつけの自信」の問いとの相関をみると、自信が「まったくない」母親は、たたいたりしたいと思うことが「よくある」43 %、「まあまあある」36 %で合わせて 79 %となっており、自信のある母親が 26 ~ 31 %であるのに比べて非常に高くなっている。

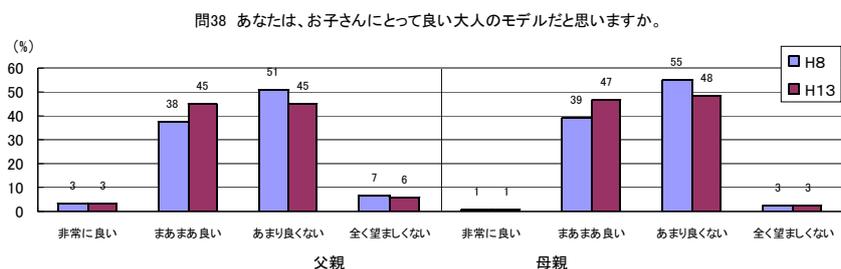


(5) 良いモデル

子どもにとって良い大人のモデルになっていると思うのは「非常に」「まあまあ」を合わせて父親も母親も共に 48 %と全体のほぼ半数である。前回ではそれについて父親が 41 %、母親が 40 %だったところから、肯定的なモデル像がやや増加したこと

になる。しかし、しつけに関する学習をする親が減少している中で、親のとらえている良いモデルが、ひとりよがりになっていないか気になるところである。理想的な大人のあり方がどのようにとらえられているのかは、今後検討していく必要があるだろう。学年別にみると父親はどの選択肢も学年間でそれほど差異はみられない。一方、母親は肯定的なモデル像の割合が3、4年生より5、6年生で5~14ポイント高くなっている。これは思春期を向えた娘が同性として、より近い存在として認めやすくなるためではないかと考えられる。

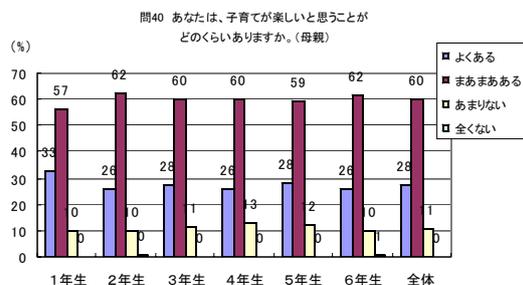
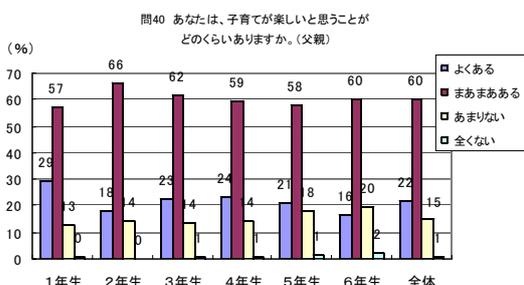
また「しつけの自信」の問いとの相関をみると、しつけに自信のある親は、大人のモデルとして、「非常によい」「まあまあよい」と自分を肯定的にとらえている傾向が高いことがわかる。



(6) 子育ての楽しさの実感

子育てが楽しいと思うことが「よくある」「まあまあある」という父親は82%、母親は88%で、多くの親が子育ての楽しさを実感している。しかし、楽しいと思うことがあまりないというのが、父親で15%、母親に11%みられるのが気にかかるところである。学年別には父親の方で学年間に差がみられた。すなわち低学年の方が高学年より楽しいと感じることが多いようで、1年生の親が86%、6年生が76%と10ポイントの開きがみられる。これは高学年になる程、親離れが進むためではないかと思われるが、こうした自立への成長過程を、子育ての楽しみの中をしっかりとらえておきたいものである。

「良いモデル」との相関をみると、良いモデルだと思う母親の大半は、子育てが楽しいと思っており、逆によりよいモデルと思えていない母親は、子育ても楽しめていないことがわかる。過剰な自信は不適切だとしても、前向きな捉え方に子育てを楽しむゆとりがもてるのであろう。



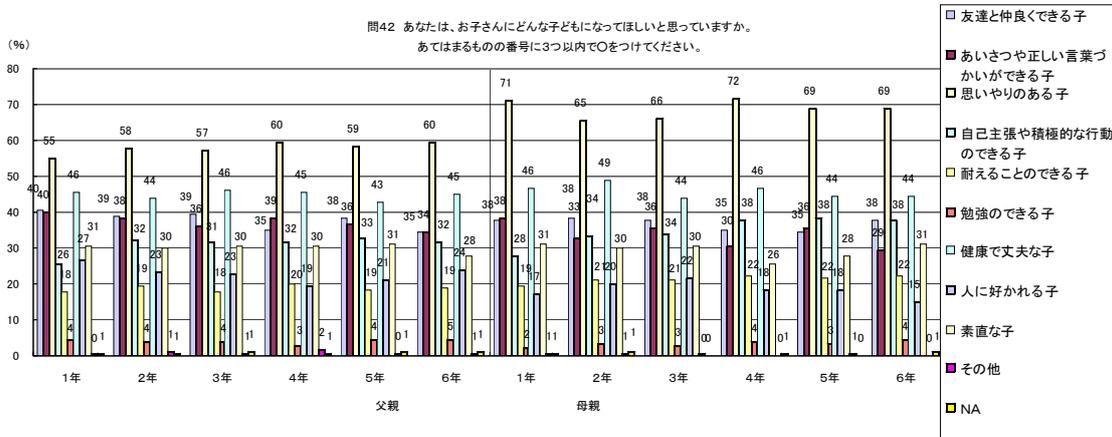
◆第4章 養育意識

1 しつけの目標

「こういう子どもに」という親の期待は、そのまま養育の姿勢に反映されやすい。しかしその期待が子どもの育ちにうまく噛み合うためには、子どもの個性をきちんと把握しておく必要がある。ここでは「親が描く子ども像」「他との比較」「男女の区別」という3つの設問から、しつけの目標に対する親の意識を検討する。

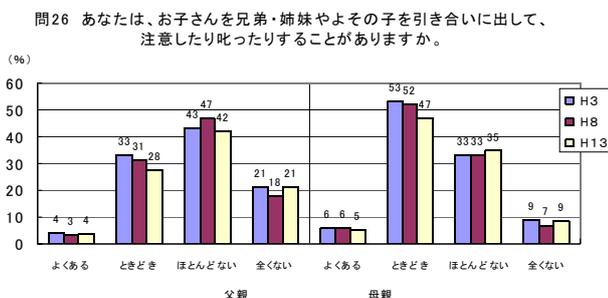
(1) 親が描く子ども像

「どんな子どもになってほしいと思いますか」の問いについて、父母ともに第1位「思いやりのある子」(父親 58%・母親 69%)、第2位「健康で丈夫な子」(父親 45%・母親 46%)、第3位「友達と仲良くできる子」(父親 38%、母親 37%)となっている。1位、2位の順番は過去の平成3年と8年の調査結果と父母ともに一貫して変わっていない。3位は、前回の調査で「自己主張や積極的な行動のできる子」であったのが、今回は前々回に3位であった「友達～」に戻っている。1位、3位は人との関わりに関することであるが、これらは「しつけの重点」の設問で友達関係が毎回1位を占めているのにも関連していると思われる。人間関係が希薄になりつつあると言われる現代社会にあっても、子どもに期待する親の意識としては、対人関係の側面が最も重視されているようである。また最下位は「勉強のできる子」で、これも過去の結果と同じであるが、塾に通う子どもが年々増えているという実態とのずれを感じるところである。



(2) 他の子どもとの比較

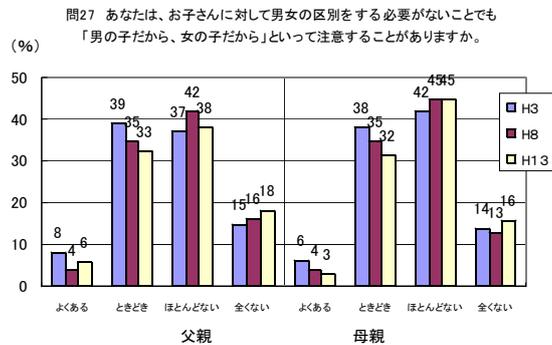
兄弟・姉妹やよその子を引き合いに出して、注意したり叱ったりすることが「よくある」「ときどきある」のは、父親 32%、母親 52%で、母親の方が高い割合である。しかし前回(父親 34%・母親 58%)や、前々回(父親 37%



・母親 59 %) の結果と比較するならば、母親は依然として過半数を超えているものの、やや減少傾向にあると言えるだろう。男女別でみられる違いとしては、男子の父親が「ほとんどない」「全くない」を合わせて 61 %で、女子の父親の 67 %よりやや低い。他の子どもを基準にしてしまうと、一人一人の個性を見失いやすい。その子なりの育ちをしっかりと認めていきたいものである。

(3) 男女の区別

男女の区別をする必要がないことでも、「男の子だから」「女の子だから」といって注意することが「よくある」「ときどきある」のは、父親が 39 %、母親が 35 %である。また過去の調査との比較では、前々回が父親 47 %、母親 44 %



、前回は父母ともに 39 %であった。すなわち、男女の区別を必要以上にする母親は年々減少しており、父親も母親より区別が多いものの、10年前からは8ポイントの減少になっている。男女別にみると、男子の母親が 32 %であるのに対して、女子には 37 %とや高くなっている。性役割の期待が年々薄れる傾向にあるが、それでも母親は同性の娘には「女らしく」を求めやすいようである。

2 育ちの意識

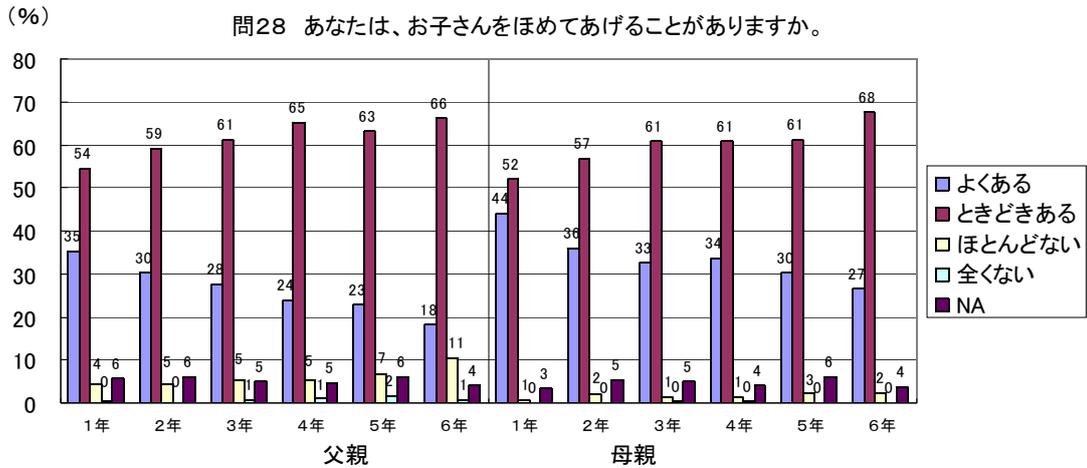
子どもの成長に敏感になり、その肯定的な面を子どもにフィードバックすることは、子どもの中の主体性や意欲を引き出すことに通じる。また自立に向けて様々なことを身につけていかねばならない子どもに対して、親は何に重点をおいてしつけを行なっているのであろうか。「子どもをほめる」「しつけの重点」の2つの設問から育ちの意識について検討する。

(1) 子どもをほめる

「あなたはお子さんをほめてあげることがありますか」の問いに、「よくある」「ときどきある」と答えた父親は 88 %、母親は 94 % (全体で 91 %) でほとんどの親がそれにあてはまる。しかし前々回 (父親 94 %・母親 98 %)、前回 (父親 90 %・母親 94 %) の結果と比べると、10年の間に、ほめる割合が徐々に減っていることがわかる。学年別にみると、1年から6年まで父親は 84 %～89 %、母親は 91 %～96 %の範囲に納まっており、いずれの学年も父親は8割以上、母親は9割以上がほめている。しかし「よくある」と「ときどき」をそれぞれ別にしてしてみると、学年が高くなる程、「よくある」が減少し、「ときどきある」の割合が高くなっている。例えば、1年生の場合「よくある」の父親は 35 %、「ときどき」が 54 %、また「よくある」という母親が 44 %、「ときどき」52 %であるのに対して、6年生は「よくある」父親 18 %、「ときどき」66 %、「よくある」母親 27 %、「ときどき」68 %となっている。

「子どもの言い分を聞く」の問いとの相関をみると、父母ともにじっくり話を聞くことが「よくある」親は、子どもをほめることも「よくある」という割合が非常に高

く、子どものよいところをきちんと把握し、それを認めていく姿勢が伺える。

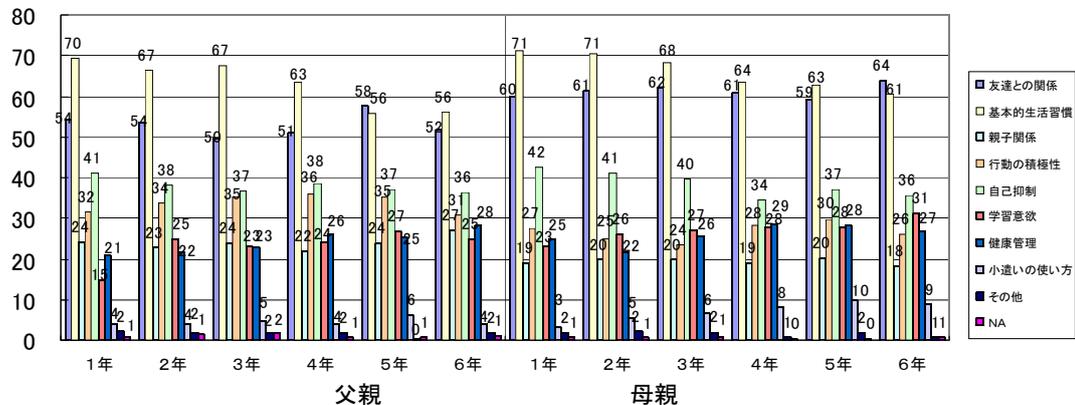


(2) しつけの重点

「しつけについて、今特にどんなことに心を配っていますか（3つ選択）」に対して、父母ともに第1位は「あいさつや言葉づかい等の基本的生活習慣」である。その項目を選んだ父親は全体の63%、母親は53%で、第2位「友達との関係」は父親53%、母親61%、第3位の「自己抑制（忍耐力）」は父母ともに38%である。この順位は前回の父親の3位が「行動の積極性」であった以外は、前々回、前回ともに変わっていない。

基本的生活習慣の多くは幼児期に身に付けておくことが期待されているが、時代とともにそれが先送りにされており、児童期でもしつけの中心にとらえられているようである。また学童期はギャングエイジともいわれ、親から離れて仲間との活動や交流を深める時期であり、「友人関係」は親としても多めに気になるところであろう。第3位の「自己抑制」については、5年前に一旦「行動の積極性」が上回りながら、再び逆転したところに注目したい。近年、学級崩壊や少年犯罪が社会問題となる中で、「きれやすい」子どもの存在がクローズアップされている影響等も考えられよう。

問41 あなたは、お子さんのしつけについて、今特にどんなことに心を配っていますか。あてはまるものの番号に3つ以内で○をつけてください。



(文責 吉川昌子)

◆第5章 結論と今後の課題

この章では、まず約20年間の本県の小学生の親の家庭教育調査結果の変容を(1)養育態度(2)学習と自己意識(3)育意識の3点から概観し、次に因子分析からの総合分析を、最後に課題と展望を提示する。

1 20年間の親の養育はどのように変わってきたか？

ここでは、昭和55年、平成3年、平成8年、平成13年(今回)の調査において継続して共通に質問項目を設定しているものを中心に約20年間の変遷を概観する。

(1) 養育態度

① 基本的生活習慣

ここ10年間は微増傾向ではあるが約7割の母親が子どもを朝起こしており、起こすのが当然という親の状況もみられる。父親の子どもを起こす割合も約4分の1と微増している中、自律起床は減少してきており、子どもの自律性を育む養育態度が改めて求められる。母親からの持ち物への注意も昭和55年から平成13年へと着実に5割から7割へと増加している。ここでのさらなる問題は高学年になっても注意の割合が減ってこなくなったことである。

② 遊び

遊び相手をしてやる割合は父親8割、母親7割は変化があまりみられない。逆に2割から3割の親が相変わらず遊び相手となっていないということも、子どもとのよりよい人間関係づくりのためにはその背景と共に問題としていくことも今後は重要である。テレビ番組の内容への注意は減少してきている。それと同時にテレビを見る時間の決まりをつくっている父親4分の1、母親3分の1と少数派である。主体的にメディアと関わる態度を育成していく養育態度が必要である。

③ 勉強

勉強に対する注意の割合は20年間で約1割減少してきている。また勉強をみてやる割合もここ10年で父親2割、母親1割減少しており、他の調査結果から指摘されている子どもの家庭学習時間の減少との関連が考えられる。学習塾に行かせる割合は約2割とあまり変化はない。現在のところは急激な学習塾の過熱化まではみられない。

④ 金銭感覚

金銭感覚は計画的な態度の育成と共に適切な消費者感覚あるいは経済感覚の基礎となると考えられる。10年間で月極で小遣いを与えている親は約2割とあまり変化はない。その一方で「みんなが持っているからと買い与えたことがある」割合は微増し続け、相変わらず5割に達し、他人に合わせて親が消費する傾向がみられる。また、今回調査では小遣いを与えていない親が増加し、主体的に金銭と関わる機会が子どもにとって減少しており、子どもの社会性の発達とあわせて自己決定的な能力をどう育成していくかが課題となる。

⑤ 社会性

あいさつに関しては全体としてあいさつをしないことに対して注意する割合は約9割と高く、意識として減少しているとはいえない。しかし、言葉づかいへの注意は減

少傾向にあり、人と人とのコミュニケーションの基本が軽視されてきているともいえる。お手伝いをさせる割合は増加してきているが、共同で家事をする割合は減少傾向にあり、手伝いを命令し孤立的にさせている状況が推測される。

社会の出来事を話す割合が母親が8割と多くなってきており、父親は母親よりも約2割少なく増加していない状況である。

⑥ 子どもの理解

子どもの親しい友人を知っている割合は父親7割、母親9割とここ5年では若干減少傾向である。子どもの話をじっくり「よく聞く」父親2割、母親4割という割合であり、ゆったりと子どもと心を開いて会話をすることが少ない。

(2) 学習と自己意識

① 学び合い

学校が主催する事業への参加は「よくある」母親は9割とここ10年間で約1割増加しているが、父親は5割で微減である。「親父の会」など父親たちが自主的に活動する機会が増えているといわれているものの、主催事業の時間が参加しにくい時間帯にあることが現在でもみられるとはいえ、半数の父親は相変わらず消極的であり、中でも1割の父親が全くの不参加である。このことは父親の地域の行事や活動への参加が減少傾向にあることとも関連があろう。またしつけについての学習の割合はここ20年間で毎回減り続けており、時間や労力をかけての親のしつけについての学習活動は減少の一途をたどっているといえよう。

② 自己意識

しつけへの自信は昭和55年から平成8年までは父親母親とも減少傾向であったが、今回若干の増加がみられた。父親の方がしつけに自信のある割合が若干高いのは20年間同様であるが、学習活動や実際に子どもに深く関わる割合はむしろ減少傾向であり、子どもに生活上様々な注意を多くすることによる自信であることが推測され、子どもの主体性を伸ばすためのしつけに自信のある親が本当に増えているかどうかは疑問である。しつけの自信としつけの厳しさは連関する部分があり、指導的な態度の親が増えてきているのではととらえられる。

父親が世話をする割合がここ10年で3割から4割と約10ポイント増加している。子どもの身のまわりの世話をしすぎることは自立を妨げることになる可能性があり、世話をしすぎることには気をつける必要がある。他方、子どもの身のまわりの世話をしない親は減少傾向にあり、少子化の中、世話をしない親は一部だといえる。しかし、一部とはいえ父親6割、母親2割が世話を「ほとんどしない」「全くしない」という状況があり、問題を含んでいる場合も考えられる。

(3) 養育意識

① しつけの目標

親が求める子ども像としては、平成3年から今回まで1位は「思いやりのある子」、2位は「健康で丈夫な子」である。複数回答で答えてもらっているが、約6、7割の親が思いやりを、約5割の親が健康を願っており、過半数の親は子どもたちが他人と

の関係をうまくとりながら元気に育っていくことを素直に願っているというのがここ 10 年間の現状であろう。3 位は平成 8 年が「自己主張や積極的な行動ができる子」だが、平成 3 年と今回の平成 13 年は「友達と仲良くできる子」となっている。平成 8 年から 5 年たち、人間関係づくりに苦しんでいる現在の親子の姿がみられる。

またここ 10 年間に注意の仕方でも兄弟姉妹や他人の子どもと比較したり、男女で区別して注意する割合は着実に減少の傾向にあり、子ども個人の可能性を伸ばしていくことに重点が置かれていっていることがみられる。しかし相変わらず他人との安易な比較や不必要な男女区別による注意をする親も 4 割から 5 割存在し、子どもをどういった方向へ育てていくのかという意識と実際の子育ての仕方には差異がみられる。

② 育ちの意識

子どもをほめる親の割合は約 9 割であり、ここ 10 年微減ではあるが相変わらず高い。しかし「よくほめる」割合は約 3 割であり、見守り、子どもの話をよく聞きながらほめること、そして必要なときには厳しく叱ることが、必ずしも伴ってされていないというのが現状である。しつけの重点は平成 3 年から今回まで 1 位は「あいさつや言葉遣い等の基本的生活習慣」、2 位は「友達との関係」である。複数回答で答えてもらっているが、約 5, 6 割の親が基本的生活習慣や友達関係の良好さを願っており、過半数の親は子どもたちが基本的生活習慣を身につけた上で他人との関係をうまくとりながら育っていくことをしつけるべきものとして求めているというのがここ 10 年間の現状である。3 位は平成 8 年の父親が「積極性」だが、平成 3 年と今回の平成 13 年は「自己抑制（忍耐力）」となっている。平成 8 年から 5 年たち、子どもたちの問題行動がメディアで取り上げられ、それに対応するように自己抑制を求める現在の親の変化がみられる。

2 因子分析からの総合的分析

家庭教育に関する調査では家庭教育の実態とともに、養育意識等についても質問を設定している。これらの質問とその回答をもとに、親の意識等がいかなる構造で構成されているのかを明らかにするため因子分析法を用いた。因子分析法ではさまざまな質問項目間の関連の強さを回答のパターンによって分析し、質問項目の背後に潜む共通の因子（要因）を探る。以下、本調査の 26 の質問項目においてこの手法を活用した結果から考察を加える。表は共通の因子を構成している質問の固まり（因子行列）を示している。因子の順番と負荷量は因子の強さを表し、質問項目の右の数字は因子に与えるそれぞれの質問項目の影響力の度合いを示している。親の家庭教育意識に影響を与えている要因とその構造は、表 1 のように強い順に 5 つのものが抽出された。分析から 5 つの提案的課題を提示する。

(1) 注意よりもじっくりと子どもとの関係づくりを

第 1 の因子は「兄弟姉妹やよその子と比較して注意する」「子どもの遊びの内容や遊び方を注意する」「テレビ番組を内容によって注意する」といった子どもへの干渉に関わる因子である。ただし下位には「子どもと一緒に家の仕事をする」「社会の出来事について話す」「子どもをよくほめる」「しつけに自信がある」といった子どもとの関係づくりの内容が含まれている。第 1 の因子に含まれる質問項目がかなり多く

〔表1〕 平成13年度福岡県家庭教育調査因子分析表

因子	1 干渉と関係づくり							
	26.兄弟姉妹やよその子と比較して注意する	0.767	14.遊んだりしているとき勉強の注意をする	0.662	21.子どもと一緒に家の仕事をする	0.618	30.話題や言い分をじっくり聞く	0.538
	8.子どもの遊びの内容や遊び方を注意する	0.765	11.「みんなもっている」と言われて買ってあげたことがある	0.638	29.社会の出来事について話す	0.600	25.学校の会合に出席する	0.505
	9.テレビ番組の内容によって注意する	0.715	15.勉強をみてあげる	0.635	31.ルールやマナーを注意する	0.583		
	27.男女区別して注意する	0.714	20.宿題や手伝いを忘れていたら注意する	0.634	32.しつけに自信がある	0.555		
	24.言葉づかいを注意する	0.713	34.身のまわりの世話をする	0.628	28.子どもをよくほめる	0.543		
負荷量	27.261							

因子	2 子育て充実	3 地域や学習に参加	4 基本的な生活習慣づけ	5 保護				
	36.イライラしていたいたりしたいと思わない	0.591	39.地域の行事への参加	0.769	5.あいさつさせている	0.645	4.お風呂で着替えを用意してあげる	0.775
	40.子育てが楽しい	0.549	37.しつけ学習あり	0.711	35.しつけにきびしい	0.610		
	38.自分は子どもにとってよいモデル	0.533			2.朝食を食べさせている	0.352		
負荷量	8.762	7.097	6.626	5.213				

※主因子法、バリマックス法6回の反転で収束

なっている。一見、これらの項目はしつけ等に関わる多様な事項であり、例えば「兄弟で比較するのは良くない」といった「悪いしつけ」、「子どもはできるだけほめよう」といった「良いしつけ」などと区別されがちなところもあった。前回の報告書では前々回の「選択的過保護」の傾向の継承を認めた上で、育成と管理は相反するという課題が示された。しかし今回の調査結果からみると、これらの子どもとの関わりをどうしていくかというしつけに関わるものは裏ではつながっており、家庭教育はこうあれば良いというものとは言い難くなっているともいえる。この因子を構成する質問項目の中でも干渉の事項が上位にきていることから、現在の親はいらいらしながら過剰に、そして過敏に子どもと関わっているともとらえられる。

ここ20年間でも自分自身の生活の時間や労力を大切にしている個人主義的な親の存在への移行がみてとれ、それと並行してある一定の放任や無関心の親の存在がみてとれる。しかしメディア等で取り上げられるほどには家庭教育が崩壊しているわけで

はない。そういう意味では子育てを放棄していない大半の親の存在は、見捨てず、関わろうとしているという意味で希望があるのかもしれないのである。この因子分析の結果から示された因子の構成は、今の家庭の多様化傾向を端的に示しており、家庭教育はこうしていれば安心というものが存在しないことを示しているともいえる。それと同時にこういった家庭教育行動は個人や社会の環境と複雑にからまりあっていると、学校の会合に出席するからといって安易に兄弟姉妹と比較したり、男女を不必要に区別しなくなるとはいえず、親の本音の部分をもう少し表に出して、個別に家庭教育の支援・促進事業等に対応していくことが必要であろう。

全体としては家庭教育において様々な意見や提案がなされ、親はそれに応じようとして、模索し、どちらかという子どもに短期的な視点で対応しようとしている様子がみられる。しかし、楽しく自信をもって子育てをするためには、下位項目にみられるような「じっくりと子どもの話を聞いたり」「子どもと一緒に家の仕事をしたり」することが必要であり、もっと実態として子どもの生活に意欲を生み出す影響を与えることが望まれる。そのことによって子どもは安心して主体的に体験活動に挑戦し、自分なりの省察を加えることが可能となるのである。

(2) 子育てのイライラ解消は子育てを楽しむ心と開き直りから

第2の因子は「いらいらしてたたいたりしたいと思わない」「子育てが楽しい」「自分は子どもにとってよいモデル」といった主として子育てが充実していることに関わる要因である。「いらいらしてたたいたりしたいと思わない」ということは、子育てが楽しいと自分で思うことや、自分は子どもにとってよい親だと思つて自己肯定観とつながっている。虐待拒否傾向ともとれる事項が一番に位置づけられていることで、現代の親のストレス社会に生きている状況もうかがい知れる。しかし自信過剰かもしれないが、開き直って自分のありのままがいいんだという意識や態度が子どもの安定的な成長には好影響をもたらすこともあるようである。忙しい厳しい中でこそ、何事も喜んでやるという楽天的な態度が、家庭教育が充実しているという自己意識の根底に関わっているということであり、苦しく厳しい時に前向きに活動できる親の意識や態度の大切さが示されている。

(3) しつけの学習は社会参加でさらに主体的活動へ

第3の因子は「地域の行事への参加」「しつけに関して本などで学習する」といった主体的な活動を示している。この因子はしつけに関する能力の中でも今日不足しているといわれている、しつけへの学習意欲や態度・主体的理解や、他人や社会との関係づく能力に関わるものである。地域活動と個人の学習は情報化社会においては別々の視点でとらえられる場合もあるが、子どもとの関わり方の根幹を支えることでは共通であることがこの析出結果から提示されている。また「地域」といった自分以外の対象に直接かかわるものが一番に位置づけられており、家庭教育に関する学習では、こういった地域での異年齢集団との直接体験的な影響を与えるものとの融合が理解を深めやすいのではないかと推測される。開かれた家庭学習への方向性への重要性を示しているといえよう。

(4) 基本的生活習慣の徹底を

第4の因子は「あいさつさせている」「しつけにきびしい」「朝食を毎日食べさせている」といった言わば、昔ながらの基本的生活習慣を徹底させることにかかわるものである。朝食を毎日食べさせるといったことは規則的かつ身体的にも有意義な生活習慣の安定へとつながる。あいさつは「人の前でいいことがうまく言える」という自己表現力やコミュニケーション能力と関連していると一般にいわれる。あいさつという、ある意味では形式から入る教育によって、気軽にまず声をかけあうことから始め、正しく伝え正しく聞くという態度の育成がまずしつけの基本として求められ、きびしくなされるべきという意識となっているのであろう。しつけの厳しさはしつけの自信や子育ての楽しさへとつながっていくのであり、甘やかしだけでは決して子育ての楽しさは得られていないということに留意しておく必要がある。

(5) 子離れをして子どもの主体性育成へ

第5の因子は「お風呂で着替えを用意してあげる」といった保護、逆にいいかえると自立的な生活習慣づくりにかかわるものである。ここでこの事項との関連が因子としてどれも出てきていないのは、小学生段階でこういった世話を自然にするというのは第1因子の干渉や関係づくりとは別のものであるということである。この項目はしつけに甘いという親自身のあきらめに似た自覚に関連する部分もあり、親子の関係を改めて問い直す事項のようである。親密さと子離れの違い、子どもが親離れしていく状況やその発達上の大切さに気づいていくことが求められ、わからないときや困ったときに助けたり助けてもらったりするという、本当に自立的な人間関係づくりにかかわるために必要とされる、親の支援・促進が存在していないのかもしれないのである。

次にここでは紙面の制約上、因子分析結果の表は省くが、父親母親別に因子分析を行った結果を合わせてみる。父親と母親を合わせた全体の因子分析の構造と父親の因子分析の構造が似ている。因子の主要部分を占める第1因子は全体も父親も17の質問項目から構成されており、注意をしたり、ほめたり、しつけをしたりを混然としたものとして意識しながら行っている状況である。母親は10の同様の質問項目で第1因子を構成しているが、子どもと係わる機会が比較的多いこともあり、まだ、直感的にしつけに必要なものを意識化していると思われる。しかし、全体の因子構造と父親の因子構造が重なり合う部分が多いということは、よりよい子育てやしつけを意識して行っている母親も、混然としたものとして家庭教育を行っていく傾向になる可能性を示しているともいえよう。

母親の場合、第2因子は「ほめる」「よく子どもの話を聞く」といった日常の子どもとの関わりが、「子育てにイライラしない」「子育てが楽しい」ことへとつながっているといった、家庭教育の充実に関わるものとなっている。父親の第2因子は地域の行事への参加などの「学習」と「子育ての楽しさ」から構成されている。母親の場合、第3の因子が学習活動に関係する内容で構成されているのに対して、父親の場合、第3の因子である非虐待の因子が単独の子育てでイライラしない、という質問項目でなりたっている。このことは父親の虐待傾向は子育ての関わりというよりも、父親の

個人的な資質や生活・環境等による単独の状況が影響しているのではないかと推測される。第4の因子は基本的な生活習慣づけに関する因子が父親母親共通のものとなっているが、父親の「朝食を食べさせる」「あいさつをさせる」に加えて母親には「しつけに甘くない」が加わっており、子どもと比較的長く接する中で、しつけを厳しくしながら生活習慣づけを意識して行っている部分がみられる。逆に第5因子として析出されたものは過保護性であり、この因子構造から父親はしつけに甘いと意識しながら子どもの着替えを用意している姿がみられる。

前回の平成8年の調査結果の今後の課題で指摘された「父親の『点的養育』、母親の『囲い込み養育』」は若干父親と母親の意識や態度が融合されながらさらに進展してきているというのが現状であろう。

3 課題と展望

(1) 発達課題としての基本的な生活習慣づけ

父親の子どもとの接触時間は相変わらず短いとはいえ、大半の親は子育てに関心を持っており、少しでも子どもの発達を支援・促進しようとしている姿が改めて浮き彫りになったのがここ20年間の調査結果である。子育てに自信がないと回答する親の増加に今回の調査では歯止めがかかった。しかし、どちらかという口先での注意が増え、ほめてもいるが、一緒に活動したり、子どもの話をじっくり聞いたりすることが充分になされているとはいえない。テレビの視聴時間を制限している親は少なく、勉強を励ます親も減ってきている中、最低限の家庭学習の習慣づけと並行して雑誌・マンガやテレビゲームなども含めたメディアとの主体的な関係が保てるための生活習慣づけが緊急に必要である。子どもの時代にしかできない体験を充実させるために必要とされる基本的な生活習慣づけを、家庭教育は基礎的に含んでおく必要がある。そのような基本的な生活習慣づけの上に立って、他人の子どもが持っているからと物を買うと与えるのではなく、親子共通の体験を充実させることが今こそ求められる。小学生時代の人間発達の時期において、安心して楽しく生活するためには、基本的な生活習慣をしっかりと身に付けさせておくことが重要であり、本県関連調査である中学生への家庭教育調査結果からもわかるとおり、その後の基本的な生活習慣の状況だけでなく生活全般にも影響を与えるようである。また、基本的な生活習慣づけのためには、親はその前提として子どもと共感したり、夢中になって遊んだり、一緒に困難を克服したり、といったことが不可欠なのである。基本的な生活習慣づけをしっかりとしている親が子育てが楽しいと回答している。そのための時間と労力を親や社会が惜しむと、小学生以降に、より厳しい状況へと子どもを追い込むことになるのである。

(2) 学び合いの拡充

ここ20年で親は、地域や学校の行事への参加が減少しただけではなく、子育てに関する個人的な学習も減少していた。それと並行して子どもの世話を母親と同じようにやろうとしている父親の増加が確かに一部見られるが、逆に社会の出来事を父親以上に子どもに話す母親も増加している。男女共同参画を基本とする現代社会においては当然の結果ともいえるが、子どもにとっては多様な大人との関わりが必要とされる

時期である。役割の違いや補い合う人間関係を体感することが今の子どもには求められるのではないだろうか。調査結果に示されたように開かれた家庭教育こそ子育ての楽しみや自信を生み出し、個人学習、あるいは夫婦の学び合いだけではなく、学校や地域に参画しながらの世代や立場を越えた学び合いがますます求められる時代となってきた。様々な家庭教育グループ、あるいは家庭教育支援グループを有機的につなげていくことも大切であり、その際、従来の教育の枠組みだけではなく、福祉、医療・保健、環境などの分野との連携がいつそう必要不可欠となってきた。その際、単なる連絡調整だけではなく、一つの事業を企画の段階から協働で行い、役割を明確にしながら分担し、協働で評価し、次の計画につなげていくことが不可欠である。家庭教育に関する親の深く広い学びを支援・促進していく協働型の環境づくりが今こそ求められる。

また従来の家庭教育事業には参加してこなかった親、特に自分の子どもが問題行動をおこしていたり、他人との関わりをさける傾向にある親に対して重点集中的にこちらから学び合いを働きかけていく必要がある。

(3) 子どもの自己決定的活動・学習能力育成のための親の成熟

これまでの調査結果と同様に今回の調査結果において、親が求める子ども像として「思いやりのある子」「健康な子」の一方で「勉強のできる子」への回答割合は低かった。しかし学習塾に行かせている親も少なくないことから、本音のところは勉強ができる子を求めている親も多いことが推測される。ただし親は本当に子どもの学力について理解し、学力育成のための支援・促進ができるまでに成熟しているのだろうか。平成8年度の調査報告書の「今後の課題」で「母親は管理しようという干渉へのシフトが見られる」と示されている。今回の調査結果から、その干渉のシフトはますます進行しているといえる。今、子どもに求められている能力は「生きる力」といわれるが、その中でも中核は自分で活動や学習の計画・実施・評価のサイクルが適切に回せる自己決定的活動・学習能力の育成である。この能力は、例えば夢中になって遊んだり、小遣いを1か月計画的に使ったり、勉強を励ましてもらったり、一緒に友達と喜んだり悲しんだり、といった体験からその根幹の能力は得られるところが大きいようである。しかし調査結果からは、遊びを注意したり、一緒に家事をしないという割合は高く、家庭においてあたたかくゆとりをもった体験を親から支援・促進してもらうことは少ない。学び方を学ぶと同時に不思議なものに感動する心や問題意識を持っていく姿勢、そして集中して遊び、学ぶ体感を小学生の低学年から得ておくことが大切であり、その根幹をしっかりと支えるのが家庭教育の課題である。

以上、これらの課題をすべて解決し展開していくことは難しく、完璧に行うことが必要とはいえない。しかし、どれか一つでもまず主体的に始めてみてはどうだろうか。やってみて合わないと感じれば修正すればよい。そのちょっとやってみようかなという親の姿が、今後の家庭教育を大きく変えていくきっかけとなるのである。

(文責 井上豊久)

III 参 考 资 料

平成13年度 小学生をもつ父親・母親の養育態度・意識の実態に関する調査実施要項

1 調査の趣旨

子どもに対する保護者の養育態度・意識は、子どもの意欲や自主性・耐性などの健全な発達に大きく関係しているといわれている。

このような観点から、保護者が具体的な生活の場面で子どもにどのように関わっているのか、その実態を明らかにしていくことは、今後の家庭教育の在り方を探求していくうえで極めて重要な課題である。

そのため、昭和55年度、平成3年度、平成8年度に小学生をもつ保護者を対象に「父親・母親の養育態度・意識の実態調査」を実施した。この中で、前々回(平成3年度)より過保護の傾向が認められており、数字的に見ると父親の関係の希薄化、母親の囲い込み養育の傾向がますます強くなってきている。

本年度は、前回と同趣旨で、小学生をもつ父親・母親の養育態度・意識の実態についての調査を実施し、5年間の保護者の養育態度・意識の変化を比較検討し、今後の乳幼児・小中学生期の一貫した家庭教育の指導のあり方を探る。

2 調査の実施者

福岡県立社会教育総合センター(平成13年度 家庭教育充実事業「調査研究部会」)

3 調査の対象及び人数(別紙)

県内小学生の保護者 約6,000名

4 調査の実施期間

平成13年9月～10月

5 調査の方法

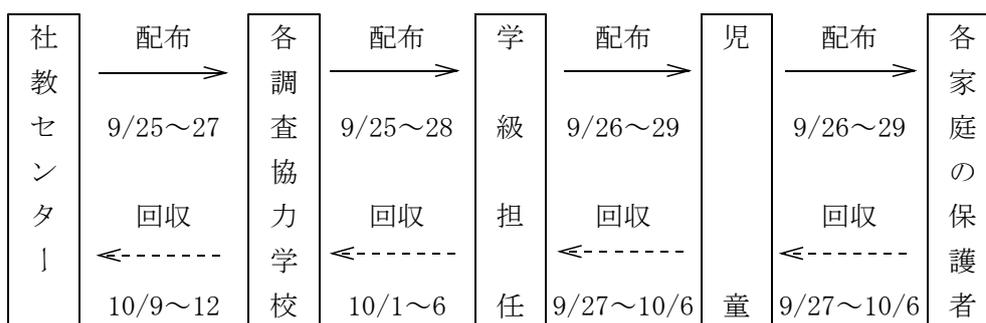
男性の保護者用、女性の保護者用の質問形式の調査票により行う。ただし、質問の構成と内容は同一のものとする。

(1) 調査票の配布

調査票は、県立社会教育総合センターが直接各調査協力小学校を訪問し、学級担任をとおして各家庭に配布する。

(2) 調査票の回収

調査票は、各家庭の保護者から学級担任をとおして、各小学校ごとに県立社会教育総合センターが直接訪問し回収する。



6 調査票

調査票は、男性の保護者用を水色、女性の保護者用をオレンジ色とする。

7 調査結果の処理

調査結果を家庭教育指導資料としてまとめ、関係機関・団体等に配布する。

8 調査協力小学校

地 区	協力依頼校	
福 岡 市	福岡市立有田小学校	福岡市立美野島小学校
北 九 州 市	北九州市立枝光小学校	北九州市立市丸小学校
福岡教育事務所管内	春日市立春日原小学校	大野城市立御笠の森小学校
北九州教育事務所管内	遠賀町立浅木小学校	
北筑後教育事務所管内	大刀洗町立大刀洗小学校	吉井町立江南小学校
南筑後教育事務所管内	星野村立星野小学校	黒木町立木屋小学校
筑豊教育事務所管内	方城町立伊方小学校	
京築教育事務所管内	築城町立築城小学校	
合 計 1 3 校		

小学生の保護者のみなさまへ

アンケート調査のお願い

新秋の候、みなさまにおかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、福岡県教育委員会では、本県における家庭教育の充実を図るために、家庭教育に関する調査研究をすすめております。

家庭教育はお子さんの成長にとって重要な役割を担っているといえます。したがって、家庭の中で保護者のみなさまがお子さんに対してどのようなかわり方をしておられるのか、その実態を知ることはこれからの望ましい家庭教育の在り方を研究していく上で、大切な手がかりを与えてくれるものと思われまます。

このような趣旨で、お子さんの小学校をとおして「小学生をもつ保護者の子育て」についてのアンケート調査をお願いすることになりました。

お忙しい中とは存じますが、ご協力くださいますようよろしくお願いいたします。

なお、この調査は、あくまで事実に基づく全体的な傾向を知ろうとするものです。下の「記入上の注意」をよくお読みになり、ありのままを記入していただければ幸いです。

また、調査結果については、すべてコンピューターで処理をいたしますので、皆様にご迷惑をかけることは一切ありません。安心して記入してください。

記入上の注意

- 調査用紙は男性の保護者用を水色、女性の保護者用をオレンジ色に分けておりますので、必ず別々に御記入ください。(一人のお子さんに対し男性・女性の保護者がそれぞれ別々に記入することになります。)
- 兄弟・姉妹がいらっしゃるご家庭は、お手数ですがそれぞれのお子さんについてご回答いただきますよう、よろしくお願いいたします。
- それぞれの設問に対し、特に指定がない限り、もっとも当てはまるもの 1つだけを選んで答えるようにしてください。
- 回答が終了しましたら、記入もれがないか確認の上、男性の保護者用、女性の保護者用を 同一の封筒に入れて密封し、お子さんをとおして担任の先生へ提出してください。

小学生のしつけ（養育態度・行動）についてのアンケート

名前を記入する必要はありません

◎ 記入の仕方についてお願い

1. この調査用紙を持って帰られたお子さんについてお答えください。
2. この用紙は女性の保護者がお答えください。
3. 各質問のお答えは、回答項目のうち、最もあてはまるものの番号（1, 2, 3など）を○でかこんでお答えください。（特に指定がない限り1つだけ選ぶようにしてください。）
4. 次の欄に必要事項をご記入くださるようお願いいたします。

お子さんの学年	お子さんの性別	ご記入くださった方 (お子さんとの関係)	ご記入くださった方の年齢
_____年	1. 男 2. 女	1. 母親 2. 伯母・叔母 3. 祖母 4. 姉 5. その他	1. 25未満 6. 45～49 2. 25～29 7. 50～54 3. 30～34 8. 55～59 4. 35～39 9. 60以上 5. 40～44

1. あなたは、今朝お子さんを起こしましたか。
 1. はい
 2. いいえ
2. あなたの家では、お子さんに朝食を食べさせていますか。
 1. 毎日食べさせている
 2. ほとんど毎日食べさせている
 3. 時々食べさせている
 4. 食べさせていない
3. あなたは、今朝お子さんが学校に出かける前に、持ち物について注意しましたか。
 1. はい
 2. いいえ
4. あなたは、お子さんが「お風呂」に入るとき、着替えを用意してあげますか。
 1. よくある
 2. ときどきある
 3. ほとんどない
 4. 全くない
5. あなたは、お子さんに「行って来ます」「おはよう」「おやすみ」「いただきます」など、家庭生活におけるあいさつをさせていますか。
 1. 必ずさせている
 2. 時々させている
 3. あまりさせていない
 4. 全くさせていない
6. あなたは、お子さんが近所の人や友人にあっても挨拶しなかったら、注意しますか。
 1. はい
 2. いいえ

22. あなたは、お子さんの寝る時刻を決めていますか。
1. はい
 2. いいえ
23. あなたは、お子さんが玄関ではきものをそろえてないとき、どうしますか。
1. お子さんにそろえさせる
 2. 自分でそろえた後、お子さんに注意する
 3. 自分でそろえておく
 4. そのままにしておく
 5. その他 ()
24. あなたは、お子さんの言葉づかいについて注意することがありますか。
1. よくある
 2. ときどきある
 3. ほとんどない
 4. 全くない
25. あなたは、学校で催される会合や行事に出席することはありますか。
1. よくある
 2. ときどきある
 3. ほとんどない
 4. 全くない
26. あなたは、お子さんを兄弟・姉妹やよその子を引き合いに出して、注意したり叱ったりすることがありますか。
1. よくある
 2. ときどきある
 3. ほとんどない
 4. 全くない
27. あなたは、お子さんに対して男女の区別をする必要がないことでも「男の子だから、女の子だから」といって注意することがありますか。
1. よくある
 2. ときどきある
 3. ほとんどない
 4. 全くない
28. あなたは、お子さんをほめてあげることがありますか。
1. よくある
 2. ときどきある
 3. ほとんどない
 4. 全くない
29. あなたは、お子さんに社会の出来事について話をしてあげることがありますか。
1. よくある
 2. ときどきある
 3. ほとんどない
 4. 全くない
30. あなたはお子さんからの話題や言い分をじっくり聞くことがありますか。
1. よくある
 2. ときどきある
 3. ほとんどない
 4. 全くない
31. あなたは、お子さんがルールやマナーを守っていないとき注意をしますか。
1. 必ずする
 2. ときどきする
 3. あまりしない
 4. 全くしない
32. あなたは、お子さんのしつけについて自信がありますか。
1. 大いにある
 2. まあまあある
 3. あまりない
 4. 全くない
33. 上記 32 で「3. あまりない 4. 全くない」と答えた方のみご回答ください。しつけがうまくいかないと感じるのはどのような点ですか。次のうち最もあてはまるものの番号 1 つに○をつけてください。
1. 気分や感情に左右され、しつけの態度にムラがある。
 2. 仕事が忙しく、しつけにじっくり関わる余裕がない。
 3. 価値観の多様化により、しつけの基準がわかりにくい。
 4. 成長とともに、子どもの気持ちがかみにくくなっている。
 5. その他 ()
34. あなたは、お子さんの身の周りの世話をしているほうだと思いますか。
1. 大変よく世話をしているほうだと思う
 2. まあまあ世話をしているほうだと思う
 3. あまり世話をしていないほうだと思う
 4. 全く世話をしていないと思う

(裏面もあります)

35. あなたは、お子さんのしつけについて甘いほうだと思いますか。
1. 大変甘いほうだと思う
 2. まあまあ甘いほうだと思う
 3. あまり甘いほうだとは思わない
 4. 全く甘くないと思う
36. あなたは、子育てにおいてイライラしたりして、お子さんをたたいたりしたいと思うことがどの程度ありますか。
1. よくある
 2. まあまあある
 3. あまりない
 4. 全くない
37. あなたは、お子さんのしつけについての本を読んだり、テレビ番組を見たり、講演会に行ったりすることがありますか。
1. よくある
 2. ときどきある
 3. ほとんどない
 4. 全くない
38. あなたは、お子さんにとって良い大人のモデルだと思いますか。
1. 非常に良いモデルだと思う
 2. まあまあ良いモデルだと思う
 3. あまり良いモデルでないと思う
 4. 全く望ましくないモデルだと思う
39. あなたは、地域の行事や活動に参加しますか。
1. いつも参加する
 2. ときどき参加する
 3. あまり参加しない
 4. 全く参加しない
40. あなたは、子育てが楽しいと思うことがどのくらいありますか。
1. よくある
 2. まあまあある
 3. あまりない
 4. 全くない
41. あなたは、お子さんのしつけについて、今特にどんなことに心を配っていますか。
あてはまるものの番号に3つ以内で○をつけてください。
1. 友達との関係
 2. あいさつや言葉づかい等の基本的な生活習慣
 3. 親子関係
 4. 行動の積極性
 5. 自己抑制（忍耐力）
 6. 学習意欲
 7. 健康管理
 8. 小遣いの使い方
 9. その他（ ）
42. あなたは、お子さんにどんな子どもになってほしいと思っていますか。
あてはまるものの番号に3つ以内で○をつけてください。
1. 友達と仲良くできる子
 2. あいさつや正しい言葉づかいができる子
 3. 思いやりのある子
 4. 自己主張や積極的な行動のできる子
 5. 耐えることのできる子
 6. 勉強のできる子
 7. 健康で丈夫な子
 8. 人に好かれる子
 9. 素直な子
 10. その他（ ）
43. しつけや子育て及び家庭教育について、悩みやご意見等がありましたら自由にお書きください

ご協力ありがとうございました。

データ集

＜表の見方＞

- ・表は父母それぞれがどの選択肢をどれくらいの割合で選んだかを%で示している。「NA」は無回答を表す。
- ・「男」「女」の欄は子どもの性別を表し、父母別にそれぞれの性別に対して答えた数値を示している。
- ・「父／母」の欄は、全学年を合わせた父親・母親全体の割合を示している。
(「父」の横が父親全体、「母」の横が母親全体である。)
- ・「全体」の欄は、父母を合わせた全体の数値を示している。父親の欄にまとめて記す。

問い	性別	肢	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	男	女	父／母	全体
1	父	1	25.4	26.5	23.3	23.9	22.5	26.3	24.6	24.7	24.7	49.6
		2	74.0	73.5	76.5	75.7	77.3	72.7	74.9	75.0	74.9	50.0
		NA	0.6	0.0	0.2	0.4	0.2	1.0	0.5	0.3	0.4	0.4
	母	1	74.0	72.3	71.8	70.9	70.7	70.4	71.3	71.9	71.6	/
		2	25.4	26.9	28.0	29.1	28.9	29.4	28.4	27.7	28.0	/
		NA	0.6	0.8	0.2	0.0	0.4	0.2	0.3	0.4	0.4	/
2	父	1	89.9	86.4	88.2	86.9	89.6	82.3	86.5	88.1	87.2	88.7
		2	5.7	6.2	6.2	5.0	5.7	8.0	6.5	5.8	6.2	6.5
		3	1.5	3.1	2.7	4.4	2.2	4.5	3.1	3.0	3.1	3.0
		4	2.3	3.6	2.3	2.9	2.0	4.1	3.1	2.6	2.8	1.4
		NA	0.6	0.7	0.6	0.9	0.4	1.0	0.8	0.6	0.7	0.4
	母	1	91.8	90.2	91.6	89.3	89.0	88.5	89.9	90.2	90.1	/
		2	6.7	6.9	5.9	7.4	7.4	6.9	7.1	6.6	6.9	/
		3	0.9	2.7	2.5	3.3	3.4	4.4	2.8	3.0	2.9	/
		4	0.6	0.2	0.0	0.0	0.2	0.0	0.2	0.1	0.2	/
		NA	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.1	0.0	/
3	父	1	14.9	15.0	16.4	13.2	14.8	12.3	14.2	14.7	14.4	45.0
		2	84.0	84.5	82.5	86.6	84.8	86.5	85.1	84.5	84.8	54.5
		NA	1.1	0.5	1.1	0.2	0.4	1.2	0.7	0.8	0.8	0.5
	母	1	84.9	80.8	78.8	70.3	60.7	57.0	75.3	68.8	71.9	/
		2	14.3	19.0	21.0	29.3	38.9	42.8	24.3	30.9	27.7	/
		NA	0.8	0.2	0.2	0.4	0.4	0.2	0.4	0.3	0.4	/
4	父	1	3.4	3.1	2.1	1.8	1.6	1.9	2.8	1.6	2.3	16.5
		2	12.0	14.1	10.2	7.2	6.4	3.9	10.5	6.9	8.9	12.7
		3	34.0	29.6	31.8	22.8	18.3	19.7	26.6	25.3	26.0	23.9
		4	50.0	53.2	55.3	67.5	73.3	72.6	59.5	65.3	62.1	46.3
		NA	0.6	0.0	0.6	0.7	0.4	1.9	0.7	0.8	0.7	0.5
	母	1	50.7	36.3	30.0	23.3	18.5	16.8	33.6	24.9	29.1	/
		2	18.1	24.0	17.8	14.4	13.3	10.1	17.0	15.4	16.2	/
		3	17.0	20.1	23.9	26.0	23.8	21.2	21.3	22.7	22.0	/
		4	13.8	19.2	27.9	36.1	44.2	51.7	27.6	36.9	32.4	/
		NA	0.4	0.4	0.4	0.2	0.2	0.2	0.5	0.1	0.3	/
5	父	1	67.7	63.5	67.2	60.1	59.4	56.1	60.4	64.7	62.3	71.5
		2	26.1	27.0	24.7	29.2	29.4	29.8	29.1	25.9	27.7	22.3
		3	4.6	7.4	6.9	8.3	7.9	10.1	7.9	7.1	7.5	4.6
		4	1.3	2.2	1.3	1.8	3.3	3.5	2.2	2.2	2.2	1.1
		NA	0.4	0.0	0.0	0.7	0.0	0.7	0.4	0.2	0.3	0.2
	母	1	84.1	81.8	82.4	78.4	76.8	73.9	78.6	80.3	79.5	/
		2	14.9	16.5	16.4	18.3	19.8	23.2	19.3	17.3	18.2	/
		3	0.8	1.7	1.3	2.9	3.0	2.7	2.0	2.2	2.1	/
		4	0.2	0.0	0.0	0.0	0.4	0.2	0.1	0.2	0.1	/
		NA	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	/
6	父	1	90.6	88.8	88.6	87.9	87.0	85.6	87.2	89.1	88.1	92.7
		2	8.6	11.2	11.4	11.6	12.8	13.4	12.2	10.6	11.5	7.1
		NA	0.8	0.0	0.0	0.4	0.2	1.0	0.6	0.2	0.4	0.2
	母	1	96.7	98.1	97.1	97.5	95.2	96.3	96.4	97.2	96.8	/
		2	3.3	1.9	2.9	2.5	4.8	3.5	3.6	2.7	3.2	/
NA	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.1	0.0	/		

問い	性別	肢	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	男	女	父/母	全体
7	父	1	63.5	67.5	68.2	68.9	67.1	67.8	65.3	69.6	67.2	80.0
		2	31.3	27.0	26.6	26.8	26.9	27.7	29.0	26.1	27.7	15.2
		NA	5.2	5.5	5.2	4.4	6.0	4.3	5.7	4.3	5.1	4.8
	母	1	90.8	89.4	91.2	92.8	90.9	92.5	89.7	92.8	91.3	
		2	5.9	5.4	4.0	3.1	3.2	3.8	5.7	2.8	4.2	
		NA	3.3	5.2	4.8	4.1	5.9	3.7	4.6	4.4	4.5	
8	父	1	6.5	7.6	5.0	4.4	6.4	5.9	7.4	4.1	6.0	6.7
		2	48.5	50.6	49.5	45.6	41.3	44.6	50.5	41.8	46.7	52.2
		3	33.4	30.1	33.7	37.7	35.1	35.1	29.3	40.4	34.2	31.1
		4	6.5	6.2	6.4	7.7	11.5	10.1	7.2	9.2	8.1	5.2
		NA	5.0	5.5	5.4	4.6	5.7	4.3	5.6	4.5	5.1	4.8
	母	1	7.7	9.4	9.0	6.6	5.2	6.2	8.8	5.9	7.3	
		2	62.1	62.8	61.5	53.4	53.5	50.1	64.3	50.6	57.2	
		3	25.8	21.5	21.8	34.2	31.4	34.4	20.6	35.3	28.2	
		4	1.2	0.9	2.5	2.1	4.0	5.5	1.7	3.8	2.7	
		NA	3.2	5.4	5.2	3.7	5.9	3.8	4.6	4.5	4.6	
9	父	1	4.0	3.4	5.0	4.0	2.9	2.9	4.3	2.9	3.7	4.0
		2	29.6	31.0	31.6	33.8	35.1	34.5	30.8	34.9	32.6	35.2
		3	45.2	45.1	45.7	41.4	41.3	42.7	43.4	43.8	43.6	43.5
		4	15.5	14.3	12.5	16.2	14.8	15.4	15.7	13.6	14.8	12.3
		NA	5.7	6.2	5.2	4.6	5.9	4.5	5.8	4.8	5.3	5.1
	母	1	3.8	4.3	5.0	4.3	4.0	3.7	3.9	4.5	4.2	
		2	37.9	36.3	38.0	37.3	38.3	37.5	37.1	38.0	37.6	
		3	43.6	43.8	41.0	45.8	42.7	43.5	43.8	42.9	43.4	
		4	11.1	10.0	10.4	8.5	8.4	11.5	10.2	9.8	10.0	
		NA	3.6	5.4	5.6	4.1	6.6	3.8	5.0	4.7	4.9	
10	父	1	25.2	24.8	21.8	26.8	22.7	19.9	25.1	21.5	23.5	30.0
		2	69.5	69.2	72.8	68.6	71.1	75.6	69.1	73.9	71.2	65.1
		NA	5.3	6.0	5.4	4.6	6.2	4.5	5.8	4.6	5.3	5.0
	母	1	41.9	39.1	37.1	36.1	31.8	28.7	35.8	35.6	35.7	
		2	54.5	55.3	57.9	59.8	61.9	67.6	59.5	59.8	59.6	
		NA	3.6	5.6	5.0	4.1	6.3	3.7	4.7	4.7	4.7	
11	父	1	4.2	6.4	6.0	3.7	5.3	4.3	5.1	4.8	5.0	3.9
		2	41.4	48.7	46.4	47.6	45.0	43.1	47.5	42.5	45.3	47.4
		3	40.1	32.0	36.0	34.9	34.7	39.6	33.4	39.9	36.3	36.8
		4	8.8	7.4	6.4	9.4	9.3	8.8	8.3	8.4	8.4	7.1
		NA	5.5	5.5	5.2	4.4	5.7	4.1	5.7	4.3	5.1	4.8
	母	1	3.5	3.8	2.3	3.3	3.0	2.0	3.6	2.4	3.0	
		2	48.2	52.6	51.4	51.1	45.3	47.5	53.5	45.5	49.3	
		3	38.4	33.6	35.6	36.1	38.9	40.4	33.9	40.4	37.2	
		4	6.5	4.8	5.8	5.8	6.5	6.4	4.6	7.3	6.0	
NA	3.4	5.2	4.9	3.7	6.3	3.7	4.5	4.6	4.5			
12	父	1	27.3	21.2	22.9	18.6	13.4	13.3	20.3	18.4	19.5	15.2
		2	60.3	64.2	61.3	64.9	62.9	61.0	62.7	61.9	62.4	62.2
		3	6.3	7.9	10.6	10.5	15.7	18.9	10.1	13.7	11.7	16.3
		4	0.4	1.0	0.2	1.6	1.8	2.1	1.0	1.4	1.1	1.1
		5	0.4	0.2	0.0	0.0	0.2	0.2	0.3	0.1	0.2	0.2
		NA	5.3	5.5	5.0	4.4	6.0	4.5	5.6	4.5	5.1	5.1
	母	1	17.6	13.8	13.0	8.9	8.6	6.8	10.9	11.9	11.4	
		2	68.5	64.3	65.7	64.3	59.4	50.3	60.4	63.5	62.0	
		3	10.5	15.5	15.7	21.0	24.0	34.5	22.0	18.8	20.3	
		4	0.0	0.4	0.4	1.4	1.0	3.3	1.5	0.7	1.1	
		5	0.0	0.0	0.0	0.2	0.4	0.5	0.3	0.1	0.2	
NA	3.4	6.1	5.4	4.3	6.7	4.6	5.0	5.1	5.1			

問い	性別	肢	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	男	女	父/母	全体	
13	父	1	19.1	11.5	15.8	12.9	12.6	12.1	13.6	14.7	14.1	7.1	
		2	17.4	18.1	18.5	19.7	16.3	19.7	18.8	17.8	18.3	10.5	
		3	18.9	24.6	21.2	20.8	21.4	20.7	21.0	21.5	21.2	13.5	
		4	18.7	21.7	17.7	20.4	22.7	20.9	19.4	21.5	20.3	17.4	
		5	20.6	17.9	21.6	21.1	21.0	22.0	21.4	19.9	20.7	46.5	
		NA	5.3	6.2	5.2	5.1	6.0	4.5	5.9	4.6	5.3	5.0	
	母	1	0.2	1.9	1.3	0.6	0.9	0.9	1.2	0.7	1.0		
		2	2.3	3.3	3.4	2.3	3.1	6.6	3.2	3.8	3.5		
		3	4.6	6.3	7.4	5.2	9.1	7.3	7.5	5.9	6.7		
		4	13.4	16.9	12.6	17.5	12.2	17.2	15.3	14.6	14.9		
		5	76.1	66.2	69.9	70.1	68.8	64.0	68.0	70.3	69.2		
		NA	3.4	5.4	5.4	4.3	5.9	4.0	4.8	4.7	4.7		
14	父	1	17.4	26.3	26.8	28.5	25.2	22.6	25.7	22.8	24.4	35.9	
		2	38.5	44.4	47.2	41.9	47.0	46.2	43.5	45.1	44.2	41.4	
		3	29.0	16.5	16.0	19.5	14.8	20.1	18.9	20.1	19.4	13.9	
		4	10.1	7.4	5.0	5.7	7.3	7.0	6.5	7.8	7.1	4.1	
		NA	5.0	5.5	5.0	4.4	5.7	4.1	5.5	4.3	4.9	4.7	
		母	1	43.6	49.9	53.1	47.8	42.7	39.5	49.0	43.3	46.0	
	2		39.0	35.9	35.4	40.6	41.3	41.3	38.1	39.7	39.0		
	3		11.2	7.9	5.9	7.4	8.4	13.2	7.1	11.0	9.1		
	4		2.5	1.0	0.7	0.6	1.7	2.2	1.4	1.5	1.5		
	NA		3.3	5.2	4.9	3.7	5.9	3.8	4.5	4.4	4.5		
	15		父	1	7.8	7.0	7.5	7.5	5.5	4.3	6.3	7.0	6.6
		2		52.5	7.2	56.6	52.6	51.0	43.5	49.5	55.2	52.0	54.0
3		27.1		56.6	26.4	29.6	30.2	38.4	31.8	27.4	29.8	21.8	
4		7.6		26.4	4.6	5.3	7.5	9.5	6.8	6.1	6.5	3.9	
NA		5.0		5.5	5.0	5.0	5.7	4.3	5.7	4.4	5.1	4.8	
母		1		56.0	31.3	22.8	14.8	13.0	4.6	25.8	21.3	23.5	
		2	38.1	56.4	62.8	61.9	58.5	56.3	54.7	56.7	55.7		
		3	2.9	7.1	7.9	18.6	21.3	29.6	13.5	15.9	14.7		
		4	0.0	0.0	1.3	1.0	1.1	5.9	1.6	1.6	1.6		
		NA	3.1	5.2	5.2	3.7	6.1	3.7	4.4	4.6	4.5		
		16	父	1	10.9	12.9	12.9	17.3	19.0	20.9	14.2	17.6	15.7
2				83.8	81.2	81.7	78.3	75.1	74.7	80.1	77.9	79.1	79.4
NA	5.3			6.0	5.4	4.4	6.0	4.3	5.8	4.5	5.2	4.9	
母	1			11.7	12.7	12.8	19.0	17.9	20.5	15.2	16.4	15.8	
	2			85.3	82.1	81.8	77.3	75.6	7.9	80.4	78.9	79.6	
	NA			3.1	5.2	5.4	3.7	6.5	3.7	4.5	4.7	4.6	
17	父		1	5.9	9.1	15.6	21.3	28.7	33.5	17.9	20.8	19.2	21.8
			2	0.6	1.9	2.1	2.6	2.4	2.1	1.6	2.4	2.0	2.0
			3	29.0	40.1	41.4	39.5	39.1	41.9	38.2	38.8	38.5	39.1
			4	55.0	39.4	30.8	26.3	19.4	14.6	32.1	29.2	30.8	28.0
			5	4.2	3.8	4.4	5.7	4.2	3.7	4.6	4.1	4.3	4.2
			NA	5.3	5.7	5.8	4.6	6.2	4.3	5.7	4.8	5.3	4.9
	母	1	8.0	11.5	16.9	26.4	36.2	44.1	22.9	25.3	24.1		
		2	1.9	2.7	1.6	1.8	1.5	3.1	2.0	2.2	2.1		
		3	29.1	39.5	46.0	47.2	37.7	38.2	40.8	38.6	39.7		
		4	55.5	35.9	25.2	15.5	13.1	9.5	25.5	25.6	25.5		
		5	2.5	5.2	5.4	5.2	5.3	1.5	4.3	4.1	4.2		
		NA	3.1	5.2	4.9	3.9	6.1	3.7	4.5	4.4	4.5		
18	父	1	6.3	5.5	5.0	6.8	6.2	7.6	6.7	5.7	6.2	7.9	
		2	29.6	28.4	37.6	37.7	38.0	39.0	36.9	33.0	35.2	39.7	
		3	21.6	33.7	32.0	31.8	31.4	32.0	29.4	31.5	30.3	26.6	
		4	17.4	11.9	7.5	8.3	10.6	8.4	10.3	11.1	10.7	7.8	
		5	16.6	12.7	12.1	10.8	8.0	8.4	10.3	12.7	11.4	11.8	
		NA	8.4	7.9	5.8	4.6	6.0	4.5	6.4	5.9	6.2	6.2	
	母	1	5.0	8.4	10.4	10.3	12.2	10.1	9.5	9.3	9.4		
		2	31.6	41.5	44.4	49.7	46.7	47.5	46.0	41.4	43.6		
		3	23.3	20.9	23.4	23.3	21.5	27.1	22.2	24.4	23.3		
		4	12.2	6.1	5.4	1.8	2.7	3.3	5.6	4.9	5.3		
		5	18.6	16.1	9.9	10.7	10.5	7.9	10.6	13.6	12.2		
		NA	9.4	7.1	6.5	4.3	6.5	4.2	6.2	6.4	6.3		

問い	性別	肢	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	男	女	父/母	全体
19	父	1	26.7	23.6	31.0	37.1	36.2	39.6	32.0	33.1	32.5	40.7
		2	68.1	70.6	63.6	58.6	57.8	56.1	62.3	62.3	62.3	54.4
		NA	5.3	5.7	5.4	4.4	6.0	4.3	5.7	4.6	5.2	4.9
	母	1	44.4	42.0	47.1	46.2	51.1	55.9	45.5	50.2	47.9	
		2	52.0	52.6	46.9	49.9	43.1	40.4	49.7	45.2	47.3	
		NA	3.6	5.4	5.9	3.9	5.9	3.7	4.8	4.7	4.7	
20	父	1	25.8	27.9	35.1	29.6	24.9	27.9	29.0	28.2	28.6	44.0
		2	46.4	46.5	45.1	48.5	48.3	46.0	46.4	47.2	46.8	39.9
		3	17.2	14.8	11.4	13.6	15.2	17.3	15.0	14.9	14.9	8.9
		4	5.3	5.0	3.3	4.0	5.5	4.7	4.0	5.4	4.6	2.4
		NA	5.3	5.7	5.0	4.4	6.0	4.1	5.6	4.4	5.1	4.7
	母	1	67.1	63.7	58.6	58.8	49.5	48.8	58.9	56.4	57.6	
		2	26.8	28.0	33.1	34.4	39.8	40.4	32.8	34.7	33.9	
		3	2.9	2.9	2.3	3.1	4.4	6.0	3.7	3.6	3.6	
		4	0.2	0.2	0.9	0.0	0.4	1.1	0.3	0.7	0.5	
		NA	3.1	5.2	5.0	3.7	5.9	3.7	4.4	4.5	4.4	
21	父	1	5.9	6.4	6.9	6.4	6.2	7.6	6.0	7.3	6.6	11.8
		2	44.8	44.2	48.0	49.6	46.4	45.4	45.1	48.1	46.4	54.7
		3	35.3	36.0	32.9	33.8	34.2	35.1	35.7	33.0	34.5	24.7
		4	9.0	7.9	7.3	5.9	7.3	7.6	7.7	7.3	7.5	4.1
		NA	5.0	5.5	5.0	4.4	6.0	4.3	5.6	4.3	5.0	4.7
	母	1	14.3	16.5	16.0	16.1	19.1	16.3	12.5	20.0	16.4	
		2	66.7	63.3	62.6	61.0	58.3	60.7	61.2	62.9	62.1	
		3	14.9	14.2	15.3	18.3	15.8	17.6	20.5	11.9	16.0	
		4	1.0	0.8	1.3	0.8	1.0	1.8	1.5	0.8	1.1	
		NA	3.1	5.2	4.9	3.9	5.9	3.7	4.4	4.5	4.4	
22	父	1	60.3	59.9	55.3	54.8	51.0	44.2	54.4	53.8	54.1	63.7
		2	34.2	33.7	39.5	40.1	42.8	51.5	39.7	41.4	40.5	31.4
		NA	5.5	6.4	5.0	5.0	6.2	4.3	5.9	4.8	5.4	4.9
	母	1	83.2	77.5	73.9	70.3	68.6	59.8	72.3	71.9	72.1	
		2	13.8	17.1	20.9	25.8	25.5	36.6	23.3	23.5	23.4	
		NA	3.1	5.4	5.2	3.9	5.9	3.7	4.4	4.6	4.5	
23	父	1	35.5	28.6	34.1	29.2	30.7	30.6	30.0	33.4	31.5	37.3
		2	12.6	12.4	15.2	12.1	15.0	14.8	13.1	14.5	13.7	21.6
		3	6.1	5.3	5.2	4.2	5.7	5.1	5.5	5.0	5.3	7.5
		4	37.6	44.9	37.6	46.7	40.4	42.9	43.3	39.5	41.6	26.5
		5	2.3	2.4	1.9	2.4	1.6	1.9	2.0	2.2	2.1	2.0
		NA	5.9	6.4	6.0	5.5	6.6	4.7	6.2	5.4	5.8	5.2
	母	1	46.5	43.8	43.0	40.2	43.2	37.3	37.8	46.4	42.3	
		2	27.7	27.1	28.4	28.9	28.4	30.4	30.2	27.0	28.5	
		3	10.1	9.8	9.5	11.1	5.9	10.1	11.1	7.9	9.4	
		4	11.1	10.4	11.0	14.6	13.7	18.8	14.5	12.0	13.2	
		5	1.2	3.3	2.7	1.4	2.3	0.6	1.7	2.0	1.9	
		NA	3.4	5.4	5.4	3.9	6.5	3.5	4.7	4.7	4.7	
24	父	1	23.7	20.5	18.7	18.2	17.0	17.7	19.0	19.7	19.3	23.3
		2	51.5	53.7	55.9	51.3	55.9	53.4	52.3	55.2	53.6	54.7
		3	16.0	17.6	18.3	21.7	18.1	21.4	20.1	17.4	18.9	15.2
		4	3.4	2.4	1.9	4.0	3.1	3.5	3.0	3.1	3.0	2.0
		NA	5.5	5.7	5.2	4.8	5.9	4.1	5.7	4.6	5.2	4.8
	母	1	33.8	25.9	27.0	25.8	23.1	25.1	24.3	29.1	26.8	
		2	52.6	57.8	57.0	55.2	55.6	55.8	56.9	54.5	55.6	
		3	9.6	9.6	10.4	13.2	14.3	14.1	13.0	10.9	11.9	
		4	1.0	1.3	0.5	1.6	1.1	1.7	1.5	0.9	1.2	
		NA	3.1	5.4	5.0	4.3	5.9	3.5	4.4	4.6	4.5	

問い	性別	肢	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	男	女	父/母	全体
25	父	1	13.2	12.9	10.2	10.5	9.9	10.3	12.0	10.2	10.3	34.4
		2	41.2	44.9	45.5	44.1	46.1	42.3	43.0	45.2	42.3	38.4
		3	30.0	28.9	29.1	31.8	29.6	30.6	29.8	30.3	30.6	17.5
		4	10.1	7.4	10.0	8.6	8.0	12.3	9.4	9.5	12.3	4.8
		NA	5.5	6.0	5.2	5.0	6.4	4.5	5.8	4.9	4.5	5.0
	母	1	60.4	53.7	53.4	56.5	51.1	54.5	56.3	53.6	54.9	
		2	31.7	33.8	34.2	33.0	35.4	32.4	32.6	34.2	33.4	
		3	4.2	6.5	6.3	6.0	6.9	8.4	6.1	6.7	6.4	
		4	0.2	0.4	1.1	0.6	0.6	1.3	0.7	0.7	0.7	
		NA	3.4	5.6	5.0	3.9	6.1	3.5	4.4	4.7	4.6	
26	父	1	4.6	4.1	4.2	3.5	3.5	3.5	4.5	2.8	3.7	4.5
		2	26.7	32.9	28.5	23.3	28.9	25.7	29.3	25.4	27.6	37.7
		3	37.4	41.5	41.0	48.0	40.4	45.6	39.6	45.7	42.3	38.4
		4	25.6	15.5	20.8	20.0	20.8	22.0	20.6	21.3	20.9	14.3
		NA	5.7	6.0	5.6	5.3	6.4	4.3	6.0	4.9	5.5	5.0
	母	1	5.9	6.5	5.6	5.4	5.0	3.3	5.1	5.3	5.3	
		2	49.7	47.0	46.4	48.0	43.4	45.7	48.1	45.3	46.7	
		3	32.7	33.8	35.1	36.1	35.2	36.9	35.1	35.0	35.0	
		4	8.4	7.3	7.9	6.2	10.5	10.6	7.2	9.8	8.5	
		NA	3.3	5.4	5.0	4.3	5.9	3.5	4.5	4.6	4.6	
27	父	1	6.3	7.4	5.6	5.3	5.3	4.9	6.5	4.6	5.6	4.3
		2	32.8	36.0	33.5	31.4	31.4	31.8	32.1	33.0	32.5	32.0
		3	35.5	34.4	37.2	39.1	39.1	39.8	38.0	38.1	38.0	41.9
		4	19.8	16.2	18.1	17.4	17.4	19.1	17.4	19.4	18.3	16.8
		NA	5.7	6.0	5.6	6.8	6.8	4.3	6.0	5.0	5.6	5.1
	母	1	3.6	4.0	3.2	3.5	2.7	1.7	2.4	3.8	3.1	
		2	30.4	30.3	31.5	29.3	34.3	33.1	29.7	33.2	31.5	
		3	46.1	46.1	46.0	47.8	41.3	44.4	49.2	41.6	45.3	
		4	16.4	14.2	13.9	15.3	15.8	17.4	14.2	16.8	15.5	
		NA	3.4	5.4	5.4	4.1	5.9	3.5	4.6	4.8	4.6	
28	父	1	35.3	30.3	27.7	23.7	22.7	18.3	24.6	28.3	26.3	30.2
		2	54.4	59.2	61.1	65.1	63.1	66.3	62.5	60.5	61.6	60.7
		3	4.4	4.5	5.4	5.4	6.6	10.5	6.6	5.8	6.2	3.8
		4	0.2	0.0	0.6	0.9	1.6	0.8	0.6	0.8	0.7	0.4
		NA	5.7	6.0	5.2	4.8	6.0	4.1	5.8	4.6	5.3	4.9
	母	1	44.0	35.9	32.7	33.6	30.1	26.7	33.2	34.2	33.7	
		2	52.0	56.8	60.8	60.8	61.3	67.5	60.7	59.3	60.0	
		3	0.8	1.9	1.3	1.4	2.5	2.2	1.6	1.7	1.7	
		4	0.0	0.0	0.4	0.2	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	
		NA	3.3	5.4	4.9	4.1	6.1	3.7	4.4	4.7	4.6	
29	父	1	11.8	9.3	11.4	11.8	12.8	11.3	11.5	11.4	11.4	18.5
		2	44.8	51.6	53.2	55.7	58.1	58.5	52.2	55.4	53.6	56.6
		3	32.6	30.1	26.2	24.1	21.4	22.6	27.2	24.8	26.1	17.9
		4	5.3	3.3	3.7	3.3	1.8	3.5	3.3	3.7	3.5	2.1
		NA	5.7	5.7	5.4	5.0	6.0	4.1	5.8	4.7	5.3	4.9
	母	1	21.8	24.6	23.0	23.5	27.1	28.7	24.7	24.9	24.8	
		2	59.9	57.8	59.7	64.7	56.8	56.7	59.3	59.2	59.2	
		3	13.6	11.1	11.9	7.4	9.7	9.9	10.7	10.4	10.6	
		4	1.5	0.8	0.5	0.4	0.4	1.3	0.9	0.7	0.8	
		NA	3.3	5.6	4.9	4.1	6.1	3.5	4.4	4.7	4.6	
30	父	1	26.9	26.0	26.0	21.9	23.6	21.8	23.6	25.3	24.4	35.0
		2	55.7	53.9	54.7	60.8	53.2	55.0	55.9	55.1	55.6	51.9
		3	11.1	13.6	12.9	11.0	14.4	16.6	13.3	13.3	13.3	7.4
		4	0.8	0.7	1.0	1.5	2.7	2.3	1.5	1.5	1.5	0.8
		NA	5.5	5.7	5.4	4.8	6.2	4.3	5.8	4.7	5.3	4.9
	母	1	52.2	40.7	45.3	43.7	42.3	41.7	42.7	45.9	44.4	
		2	41.7	50.9	46.9	50.3	49.7	52.5	50.3	47.1	48.7	
		3	2.5	2.7	2.5	1.8	2.1	2.0	2.4	2.2	2.3	
		4	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.4	0.1	0.2	0.1	
		NA	3.6	5.6	4.9	4.3	5.9	3.5	4.6	4.7	4.6	

問い	性別	肢	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	男	女	父/母	全体
31	父	1	62.6	59.4	60.7	55.9	58.1	50.5	58.2	57.4	57.8	68.7
		2	29.6	31.7	31.0	36.6	31.8	39.8	33.0	34.1	33.5	24.5
		3	1.7	3.1	2.5	2.4	3.3	4.5	2.6	3.3	2.9	1.5
		4	0.4	0.0	0.6	0.2	0.9	1.0	0.6	0.5	0.5	0.3
		NA	5.7	5.7	5.2	4.8	6.0	4.1	5.7	4.7	5.2	4.9
	母	1	83.2	79.8	80.2	77.5	75.1	74.4	79.6	77.2	78.3	
		2	13.4	14.6	14.4	18.5	17.9	21.0	15.7	17.6	16.7	
		3	0.0	0.0	0.4	0.2	0.8	0.6	0.3	0.4	0.3	
		4	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.1	0.3	0.2	
		NA	3.1	5.6	5.0	3.9	6.3	3.5	4.4	4.7	4.6	
32	父	1	8.6	4.8	6.9	5.5	9.1	6.6	7.1	6.7	6.9	4.9
		2	51.5	54.2	52.6	52.6	55.0	52.0	51.2	55.0	52.9	51.8
		3	31.7	33.4	31.6	33.6	26.3	33.1	32.6	30.4	31.6	36.0
		4	2.7	1.9	3.5	3.3	3.3	3.7	3.1	3.2	3.1	2.4
		NA	5.5	5.7	5.4	5.0	6.4	4.7	6.0	4.8	5.5	5.0
	母	1	2.3	2.3	2.9	2.1	4.4	4.6	2.8	3.4	3.1	
		2	50.7	46.6	50.2	49.9	52.0	55.4	48.8	52.8	50.9	
		3	42.5	43.4	40.1	41.9	37.0	34.4	41.9	37.8	39.8	
		4	1.3	2.1	1.8	1.9	0.8	2.2	2.0	1.4	1.7	
		NA	3.3	5.6	5.0	4.1	5.9	3.5	4.6	4.6	4.6	
33	父	1	31.7	27.7	29.6	23.2	24.6	20.1	27.0	24.9	26.1	36.7
		2	40.2	40.5	45.0	36.9	44.0	38.6	40.6	40.9	40.8	25.8
		3	13.4	18.9	11.8	16.1	13.4	14.0	14.9	14.0	14.6	13.7
		4	6.1	6.1	11.2	13.7	10.5	21.2	10.2	13.8	11.8	17.1
		5	6.1	4.7	0.6	7.7	6.7	5.0	5.1	5.1	5.1	5.3
		NA	2.4	2.0	1.8	2.4	0.8	1.1	2.2	1.2	1.8	1.5
	母	1	48.0	50.0	44.2	41.2	41.4	42.0	44.4	44.8	44.6	
		2	13.1	16.1	12.5	17.7	14.1	15.0	13.7	15.8	14.7	
		3	12.7	11.9	17.2	9.7	16.2	10.5	13.8	12.2	13.0	
		4	16.6	13.8	21.9	21.2	24.2	29.5	20.9	21.1	21.0	
NA		8.3	8.3	2.2	8.4	4.0	1.0	6.3	4.5	5.4		
34	父	1	5.0	3.1	3.3	3.3	3.1	3.5	4.0	3.0	3.6	9.3
		2	33.2	39.4	32.4	30.9	32.9	30.0	34.2	31.5	33.0	46.4
		3	45.0	41.8	49.1	47.4	47.9	45.6	44.6	48.1	46.2	32.8
		4	10.5	9.1	8.7	13.4	9.5	15.4	10.7	11.8	11.2	6.0
		NA	6.3	6.7	6.4	5.0	6.6	5.5	6.5	5.6	6.1	5.5
	母	1	19.5	15.7	13.5	12.4	11.4	13.7	14.5	14.2	14.3	
		2	63.1	60.8	58.1	58.8	57.7	51.0	60.8	55.7	58.2	
		3	12.8	17.1	21.9	21.9	22.9	28.3	18.7	23.1	21.0	
		4	1.0	0.8	0.9	1.4	1.9	2.9	1.0	2.0	1.5	
		NA	3.6	5.6	5.6	5.4	6.1	4.0	5.1	5.0	5.1	
35	父	1	6.1	7.2	7.1	5.0	8.0	6.8	6.1	7.4	6.7	4.5
		2	46.9	50.1	49.9	54.6	49.9	50.3	49.2	51.5	50.3	47.6
		3	40.3	35.6	36.4	33.1	33.6	37.4	37.4	34.5	36.1	42.1
		4	6.1	6.7	5.8	6.4	7.5	5.3	6.6	5.8	6.3	5.2
		NA	0.6	0.5	0.8	0.9	1.1	0.2	0.7	0.7	0.7	0.6
	母	1	2.1	2.3	2.7	2.9	2.9	2.2	2.5	2.5	2.5	
		2	43.2	44.9	41.7	48.2	47.4	46.8	48.2	42.7	45.3	
		3	49.7	47.6	52.0	44.7	44.0	46.1	44.8	50.0	47.4	
		4	4.4	4.0	3.4	3.9	4.8	4.6	4.0	4.4	4.2	
		NA	0.6	1.3	0.2	0.4	1.0	0.4	0.6	0.6	0.6	
36	父	1	6.1	5.7	4.4	3.7	4.0	5.3	5.8	3.7	4.9	6.0
		2	28.2	27.2	26.2	26.3	26.3	21.6	27.7	23.7	25.9	32.1
		3	42.9	48.5	45.3	47.6	47.2	50.9	45.8	48.5	47.0	45.6
		4	22.3	17.9	23.5	21.9	21.9	21.4	20.1	23.3	21.5	15.8
		NA	0.6	0.7	0.6	0.4	0.7	0.8	0.6	0.7	0.7	0.6
	母	1	8.6	8.4	5.6	7.4	5.5	6.4	7.8	6.1	6.9	
		2	44.9	42.8	40.5	34.8	30.5	32.0	38.7	36.4	37.5	
		3	37.3	39.7	42.5	47.4	52.2	46.4	44.5	44.1	44.3	
		4	8.4	8.4	10.6	10.1	11.2	14.8	8.4	12.7	10.7	
		NA	0.8	0.8	0.9	0.4	0.6	0.4	0.6	0.7	0.6	
問い	性別	肢	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	男	女	父/母	全体

37	父	1	2.7	1.9	1.0	2.0	1.6	1.2	2.0	1.5	1.7	4.7
		2	17.0	16.0	15.0	13.8	16.3	15.6	15.0	16.4	15.6	30.8
		3	45.6	47.5	51.1	48.7	53.4	46.6	48.9	48.7	48.8	43.2
		4	34.2	34.1	31.8	34.9	28.5	36.6	33.8	32.8	33.4	20.7
		NA	0.4	0.5	1.0	0.7	0.2	0.0	0.3	0.7	0.5	0.6
	母	1	8.2	5.6	8.5	8.0	6.9	6.2	6.3	8.2	7.3	
		2	44.7	45.5	44.6	45.8	43.4	41.7	47.4	41.3	44.3	
		3	36.5	37.8	38.1	36.3	39.4	41.1	36.7	39.7	38.3	
		4	9.8	10.2	8.1	9.1	9.1	10.6	9.0	10.1	9.6	
		NA	0.8	0.8	0.7	0.8	0.4	0.4	0.6	0.7	0.6	
38	父	1	3.8	3.8	3.1	2.6	2.7	2.7	3.3	2.8	3.1	2.0
		2	47.1	43.7	46.0	45.2	43.7	44.8	46.3	43.6	45.1	46.1
		3	43.9	44.2	42.8	46.9	47.2	44.4	43.2	47.0	44.9	46.7
		4	4.6	6.7	6.4	4.2	5.5	7.6	6.0	5.6	5.8	4.2
		NA	0.6	1.7	1.7	1.1	0.9	0.6	1.2	1.0	1.1	1.1
	母	1	1.3	1.0	0.5	1.0	0.8	1.1	1.0	0.9	1.0	
		2	47.2	45.1	43.9	44.5	51.4	49.5	46.7	47.2	47.0	
		3	47.0	49.9	52.2	51.7	43.4	45.7	48.3	48.3	48.3	
		4	3.1	2.9	2.5	1.9	3.2	2.9	2.8	2.7	2.8	
		NA	1.3	1.0	0.9	1.0	1.1	0.7	1.1	0.9	1.0	
39	父	1	17.2	19.8	14.6	20.6	19.4	19.3	20.3	16.1	18.4	23.5
		2	42.7	43.7	46.0	43.2	45.0	45.4	43.1	45.9	44.3	49.9
		3	25.2	19.1	22.9	20.8	20.1	19.5	21.3	21.7	21.5	17.2
		4	14.5	16.5	15.8	14.0	13.7	15.6	14.8	15.3	15.0	8.6
		NA	0.4	1.0	0.8	1.3	0.9	0.2	0.5	1.1	0.8	0.7
	母	1	25.6	24.8	27.2	30.7	30.3	29.4	28.4	27.7	28.0	
		2	56.6	53.9	54.5	54.0	54.3	55.9	54.7	55.1	54.9	
		3	13.6	14.8	15.1	12.2	13.0	11.7	13.4	13.4	13.4	
		4	3.3	5.0	2.9	2.7	2.3	2.0	2.9	3.1	3.0	
		NA	1.0	1.5	0.4	0.4	0.2	0.9	0.7	0.7	0.7	
40	父	1	29.2	18.4	22.5	23.7	21.4	16.4	23.1	20.5	22.0	25.0
		2	57.1	66.1	62.0	59.4	58.1	60.0	59.9	60.9	60.4	60.1
		3	12.6	14.1	13.5	14.0	17.9	19.7	14.6	16.2	15.3	13.0
		4	0.4	0.0	1.0	1.1	1.3	2.3	0.8	1.3	1.1	0.7
		NA	0.6	1.4	1.0	1.8	1.3	1.6	1.5	1.1	1.3	1.2
	母	1	32.5	25.9	27.7	26.2	27.8	26.1	27.4	28.1	27.7	
		2	56.6	62.4	59.9	59.8	59.1	61.8	60.3	59.6	59.9	
		3	9.8	9.6	11.2	12.8	12.4	10.2	10.8	11.2	11.0	
		4	0.2	0.4	0.0	0.2	0.2	0.9	0.3	0.4	0.3	
		NA	1.0	1.7	1.3	1.0	0.6	0.9	1.3	0.8	1.1	
41	父	1	20.6	20.0	18.6	19.0	21.4	19.7	19.1	20.9	19.9	21.2
		2	26.4	24.8	25.3	23.7	20.8	21.4	23.0	24.6	23.7	23.9
		3	9.2	8.4	9.0	8.3	8.9	10.3	8.8	9.3	9.0	8.0
		4	12.1	12.5	13.2	13.4	13.1	11.8	13.1	12.1	12.7	11.1
		5	15.6	14.2	13.7	14.3	13.8	13.8	15.7	12.4	14.2	14.1
		6	5.6	9.3	8.7	9.0	9.9	9.5	9.1	8.1	8.7	9.4
		7	7.9	8.1	8.5	9.7	9.4	10.8	8.4	10.0	9.1	9.3
		8	1.5	1.5	1.7	1.6	2.3	1.6	1.8	1.5	1.7	2.2
		9	0.9	0.6	0.7	0.7	0.1	0.7	0.7	0.5	0.6	0.6
		NA	0.2	0.5	0.6	0.3	0.3	0.4	0.3	0.5	0.4	0.3
	母	1	21.8	22.3	22.5	22.4	21.3	23.4	21.2	23.4	22.3	
		2	26.0	25.8	24.8	23.4	22.7	22.2	23.4	24.8	24.1	
		3	6.9	7.2	7.2	7.1	7.3	6.8	7.3	6.9	7.1	
		4	10.0	9.2	8.6	10.4	10.8	9.6	9.6	9.8	9.7	
		5	15.5	15.0	14.4	12.6	13.3	13.1	15.2	12.8	14.0	
		6	8.4	9.5	9.9	10.2	10.1	11.4	10.8	9.1	9.9	
		7	9.1	7.9	9.3	10.5	10.2	9.8	9.3	9.6	9.5	
		8	1.3	2.0	2.3	3.0	3.6	3.2	2.3	2.8	2.6	
		9	0.7	0.8	0.7	0.2	0.7	0.2	0.5	0.5	0.5	
NA	0.3	0.3	0.3	0.1	0.1	0.3	0.3	0.3	0.3			

問い	性別	肢	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	男	女	父/母	全体
42	父	1	14.0	13.5	13.7	12.3	13.4	12.3	12.7	13.8	13.2	12.9
		2	13.9	13.3	12.7	13.5	12.8	12.2	12.8	13.4	13.1	12.2
		3	19.2	20.0	20.0	20.9	20.5	21.2	19.3	21.5	20.3	22.0
		4	8.9	11.1	10.9	11.1	11.5	11.2	12.0	9.2	10.8	11.4
		5	6.2	6.7	6.2	7.1	6.5	6.6	7.9	4.8	6.5	6.9
		6	1.5	1.3	1.4	0.9	1.5	1.6	1.3	1.4	1.4	1.2
		7	15.8	15.1	16.1	15.9	15.1	15.9	15.7	15.6	15.7	15.6
		8	9.3	8.0	7.9	6.8	7.4	8.5	7.7	8.4	8.0	7.1
		9	10.7	10.3	10.6	10.7	10.8	9.8	9.8	11.3	10.5	10.3
		10	0.1	0.3	0.3	0.5	0.1	0.2	0.3	0.2	0.3	0.2
		NA	0.2	0.2	0.3	0.2	0.4	0.4	0.3	0.3	0.3	0.2
	母	1	13.0	13.0	12.9	11.9	11.8	13.0	12.5	12.6	12.6	
		2	13.1	11.1	12.1	10.4	12.2	10.1	10.6	12.3	11.5	
		3	24.2	22.2	22.5	24.6	23.4	23.6	22.5	24.3	23.4	
		4	9.5	11.4	11.6	12.9	13.0	13.0	13.0	10.9	11.9	
		5	6.6	7.2	7.2	7.7	7.4	7.6	8.6	6.1	7.3	
		6	0.7	1.1	1.0	1.3	1.1	1.4	1.1	1.1	1.1	
		7	15.9	16.6	14.9	15.9	15.0	15.2	16.2	15.0	15.6	
		8	5.9	6.9	7.4	6.2	6.3	5.1	6.1	6.4	6.3	
		9	10.7	10.1	10.3	8.8	9.5	10.7	9.0	11.0	10.0	
		10	0.3	0.2	0.1	0.0	0.3	0.0	0.2	0.1	0.1	
NA	0.2	0.3	0.1	0.3	0.1	0.3	0.2	0.1	0.2			

平成13年度
「小学生をもつ父親・母親の養育態度
・意識の実態に関する調査」

(冊子版) 平成14年3月発行

(電子版) 平成19年6月発行

福岡県立社会教育総合センター
福岡県糟屋郡篠栗町大字金出3350-2
TEL(092)947-3511 FAX(092)947-8029

※ 本報告書(電子版)は、平成13年度に作成した冊子版報告書を、平成19年度、ホームページでの公開を目的としてOCRによる読み取りその他の方法(文字の訂正・グラフの再作成含む)で電子化したものです。そのため、グラフ等において冊子版とは若干の差異があります。